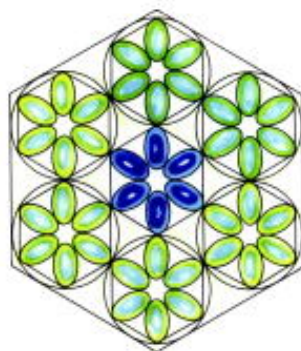


---

# 私家版 想念観察ノート



---

## はじめに

この私家版・想念観察ノートは、自然生活館・森田峯生氏による「想念観察ノート」原文を元に、読者の方がご自身やご家族の理解を深めるために、図表やコメントを追加してまとめられたものです。

想念観察に取り組まれる方々の一助となりますよう、関係各位のご厚意により、STILL LIFE ARUT（現 ハルモニアライフ）のHPより無償ダウンロードが可能なこととなりました。

記載されている情報を営利目的で使用される場合は、それぞれ原著の作者ならびに発行元に事前にご相談ください。

なお、掲載されている図や表は個人的理解を図るために引用したもので、図表が作成された本来の目的や意味とは異なる場合もございますので、それぞれの出典にあたり、ご確認頂きますようお願い致します。

2008 年 月 6 月  
STILL LIFE  
ARUT（ハルモニ  
アライフ）

**【本文】**

想念観察ノート・原文：自然生活館 森田峯生 著

（2008年8月原文改定：緑文字の箇所）

※ 印のコメント：読者の方

---

**【挿図】**

☆書籍「波動の法則」足立育朗著 ナチュラルスピリット刊

<https://www.naturalspirit.co.jp/book/b370956.html>

形態波動研究所 HP：<http://www.ifue-finf.jp/>

☆自然生活館 HP：<https://sizen-seikatsukan.com/>

---

☆その他の挿図作成：読者の方

---

---

☆ハルモニアライフ：<https://harmonya.club/>

---

\*\*\*\*\*

— 目次 —

■ 人間のエゴ-----	3
■ 洗心の心とエゴの心-----	6
■ 家族-----	9
■ 想念観察-----	12
①初歩の段階の想念観察-----	12
②中級の段階の想念観察-----	20
③最終段階の想念観察-----	23
■ 未来・現在・過去-----	27
■ 創造活動と組織・人間-----	30
■ 不安・心配の心-----	34
■ 色彩-----	37
■ 男性・女性-----	38
■ 時間・空間-----	41
■ 「気づき」と時空間-----	44
■ 感謝のはたらき-----	46

## ■ 人間のエゴ

エゴ（EGOH＝「対立」「競争」「過剰な心身の保護」をベースとしている社会や考え方）は自分とその周囲の一部を他の存在より優先させるように働きますので、様々な事態で巧妙に働きます。

現行の社会通念で通用する行為の範囲内なら「人に迷惑をかけなければ何をするのも自分の自由である」という考え方や、「私の立場は社会的に認められているから自分の立場は守る」という権利主張も自然界のルールには適っていません。

自然界は「調和」の相関関係で成り立っています。

人間が自然界で権利を主張するならば、必ず自然界の存在の意見を聞き、相手の許可をとってから行動する、これが自然界のルールだからです。

自分の精神を強く鍛える修行によって自らを救う行為も、基本的には自分自身の問題を解決しようとする行為ですが、修行の目的と修練過程の関係が極端の組み合わせに傾くとエゴが表れ、真の問題解決になりません。

「あの人は援助を必要としているから救いの手をさしのべよう」という決め込みや、「私は奉仕の精神に目覚めました。今すぐにでも奉仕活動に参加します」という考え方も、自己を救い自分に奉仕する行為であることに率直に気づくことが、エゴから愛と調和への意識転換の手がかりとなります。

エゴの典型的な考え方としてあげられるのは 自分は他の人たちと違う特別な存在でありたいとして「人ができない能力」を示すことによって唯一の人間であるとしたり、「あの人は素晴らしい人だから、あの人の意見に従ってそのグループの一員になろう」といった表面的にはエゴと気づかない行動の現れ方をする場合もあります。

また複数の人間が同じ行動をとりながら、行動の動機の意識の状態によってエゴに傾くか、その逆の場合もあります。

「この情報は自分にとって興味があるから取り入れよう」。

「これはつまらないから興味がわからない」などの提供される情報に対する態度もエゴの現れです。

「これは自分のプライドが許さないからダメ」とか「これなら何とかいいだろう」という思い、もエゴから派生しています。

「今はじつとがまんの時だ」という我慢や、「あれもこれも考えると心配で不安だ」の心配する心もエゴの一つの状態です。

自分の心からいつの間にかわきあがる自我（エゴ）はその場面、その事態に対応して様々な思いで現れてきます。

愛と調和への行動は自分の心を支配しようとするエゴ意識を、どのようにして低く押さえ込むか、これが大事なポイントです。

この対策にこれだという決定的な有効手段はありません。

なぜなら、人間は常に考え感情を持たなくては生活できないからです。

手段としてあるのは、その場、その時に現れる心の状態を日常的に継続して行える心の観察があります。これを内観、想念観察といいます。

自分の中に中立的な第三者の自分を一人おいて、その人に常に心の状態を観察してもらいます。

日常の仕事、生活のなかで様々に変化するいろいろな思いや、感情をこだわることなく観てもらい、自分と想念を切り離していく練習を毎日コツコツ積み重ねますと、感情で揺れ動く自分が人生の主人公ではなくて、本当の人生の主人公は観ていた第三者の自分であったと気づかされます。

このようになりますと、今まで眠っていた人間本来の能力が開花してきます。

本質生命体のシン（HCIN）帯、ケーシー（KECI）帯が、身体（ボディ）のシン体、ケーシー体につながり始めるからです。

（※本質生命体＝EXA PIECO ＝原子核の集合体。中性子（意識）と陽子（意志）が結合している原子核で、電子を持っていないため物質化していない。切断面が12個となる全部で62個の回転球体からなる集合体 →調和が取れるほど周波数が高くなり、地球から離れる方向へ向かう→「波動の法則」より要約）

洞察力が増し、物事の本質を見極める力が付いてきます。

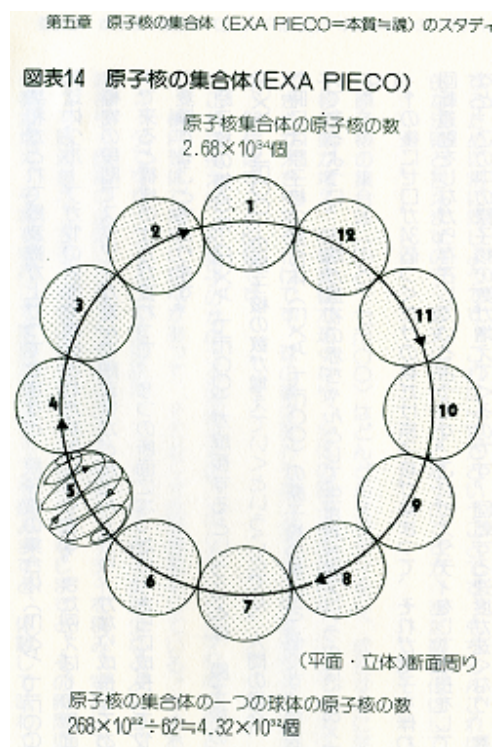
本質生命体からの直観、閃きによるメッセージも入り始め、行動に対する集中力も高まりますので、仕事の効率もよくなってきます。時空間のエネルギーもチャクラを通して入り始めますので、食事から摂取する栄養素エネルギーにプラスされたエネルギーで、体の維持機能も向上して体調もよくなってきます。

このようにして、エヴァの社会\*をつくるため意識を転換した人々が新しい時代の流れを作り加速させていきます。

（※エヴァ(EVHA)の社会とは、「愛」「調和」「互惠」を生き方の基調としている社会をいう）。

直感、閃きが増し、洞察力の豊かな人達に勧める自己想念観察のポイントは、価値観の固定化を生じさせている真の原因を理解することです。

人間社会の急変が体感できる現在は、意識の固定化をもたらず真の原因が容易に探求できる絶好機になっています。

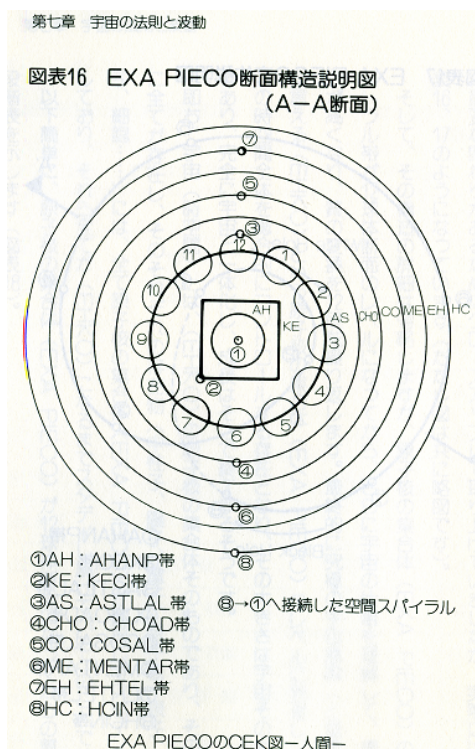


☆「波動の法則」足立育朗著

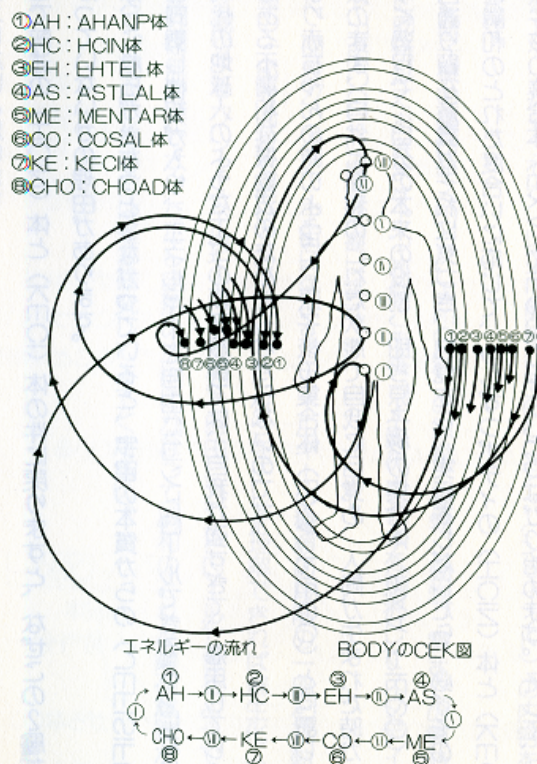
ナチュラルスピリット刊 より



自己を、あるいは多くの人を縛り付けている社会常識がなぜ生まれてきたのか、自己の観点から社会の観点から、経済の仕組みから、人類史の考察から等、学習を深めると、薄紙をはがすように真の事実が解ってきます。



図表21 BODYのCEK図



「波動の法則」足立育朗著

☆「波動の法則」足立育朗著

ナチュラルスピリット刊 より

ナチュラルスピリット刊 より

### 8つの振動層とその役割

名称	振動層の役割
アーンプ(AHANP)帯(体)	行動して体験を味わう
ケーシー(KECI)帯(体)	生命活動の意思、意識エネルギー調整口で多角形態になる
アストラル(ASTLAL)帯(体)	コミュニケーションの働きを持ち進化すると交流範囲が拡大
コアード(CHOAD)帯(体)	個体保護の情報を集積する振動層
コーザル(COSAL)帯(体)	あるがまま、なるがままの振動層で癒し、蘇生化の働きがある
メンタル(MENTAR)帯(体)	個体感情表現の振動層
エーテル(EHTEL)帯(体)	より周波数の高い振動波や神を希求する働きを持つ
シン(HCIN)帯(体)	愛と調和、輪廻転生、アナログ自然界の摂理、生命活動に関わる総合波動を包括する振動層

自然生活館 HPより

(英文表記追加)

## ■ 洗心の心とエゴの心

高次元科学の分野で先駆者の役割を果たされた故関英男先生が普及された教えに「洗心」の言葉があります。現在も多くの人々が影響を受け、現在も洗心に励んでいます。

### ◎いつも持ちたい心（洗心の心）

強く 明るく 正しく 我を折り 宜しからぬ欲を捨て 皆仲良く相和して 感謝の生活をなせ

### ◎こころのなかから、なくすべき感情（エゴの心）

#### ① 嫉み（ねたみ）

- ・自分の価値のエネルギーが 20%で、比較検討する相手のエネルギーが 100 % とすると、80 %の足りないエネルギーを相手から奪い取り、自分のエネルギーに補充しようとする心の働き。

#### ② 憎しみ

- ・自分の持っている価値のエネルギー周波数（質的のもの）と、相手の持っている価値のエネルギー周波数を比較検討し、自分の持っている価値エネルギー周波数に強制的に同調させようとする心の働き。

#### ③ 羨む（うらやむ）

- ・自分の価値と相手の価値を比較検討して相手の価値を認知し、自分の価値をそのままの状態に維持して、意識的に自分の価値を認めてもらおうとして心のエネルギー出力を低く抑えて相手の価値にすり寄って、自らの価値を次第に相手の価値に同調させ、自分自身が相手になりきってしまおうとする心の働き。

（エネルギー循環の故意の分断）

#### ④ 嫉む（そねむ）

- ・羨む心の働きでエネルギーが充足されないとき、強制的に相手に干渉して自分の価値に相手を同調させエネルギーを満たそうとする心の働き。

⑤呪い

- ・相手の行動と現実化のエネルギーのエネルギー周波数の質的なものと、自分の行動と現実化のエネルギー周波数の質的なものを比較検討して、自分のエネルギー周波数の質的なものが相手より劣っていることを認めて、強制的に相手のエネルギーを自分の低いエネルギー周波数に干渉同調させようとする心の働き。

（過去化の働き）

⑥怒り

- ・自分の心と行動エネルギーが相手の心と行動エネルギーに同調共鳴することなく、互いに認知し合うこともなく、そのままの状態ですべて平行線をたどり、その間に自分の心と行動エネルギーの質的なものが低下し続けて、何らかのきっかけで低くなったエネルギーが一気に共振して増幅拡大され、強い干渉波に変化して相手を強制的に自分のエネルギーに同調させようとする干渉的な心の働きの爆発。

⑦不平

- ・自分の行動や心のエネルギー循環状態が質的に高くなったり低くなったりして、相対的に現状維持に甘んじている心の変動を自分で認め続けて、機会ある事に揺れ動く心の原因を他に責任転嫁している心の働き。

⑧不満

- ・自分の行動や心のエネルギー循環状態が正常に常に高くなっていく状態でないことを心の片隅で認めていて、正常化の心の働きが行われず次第に心のバランスがとれなくなり、バランスをとるため、一方的に自分の持っているエネルギーを相手に強制的に干渉して押しつけ、自分に同調させようとする心の働き。

⑨疑い

- ・自分の価値と相手の価値を比較検討して、断続的に自分のエネルギーを相手に干渉波として送り、自分の価値に同調させようとする心の働き。

⑩迷い

- ・自分の心や行動周波数エネルギーを高くする方法が解らず、周波数エネルギーが常に変動している状態に陥り、周波数を高くする愛と調和の方向の心や行動をとれずにいるエネルギー平行状態（※エネルギーが平行線の状態）の精神と体の動き。

⑪心配心

- ・自分の価値観を固定化して、自分の周りの自然界（森羅万象形態）のエネルギー循環の仕組みに気づかず、過去の体験のエネルギー周波数（現在より低いエネルギー周波数）を共振増幅させ、その干渉波で現在、未来を過去に変換（運を悪くする、ツキを落とす、不測の事態の発生等）させようとする心の働き。

⑫ 答<sup>とが</sup>めの心

- ・自分の価値観を固定化して比較検討し、相手の許可や同意を得ないで、自分の価値のエネルギーを一方向的に相手に干渉波として押しつける心の働き。

⑬ いらいらする心

- ・精神をかたちつくっている感情が、対人相手や周囲の環境変化などでバランスが崩れたとき、バランスを修復しようとして湧き上がってくる心の働き。

⑭ せかせかする心

- ・自分の心を支配している感情の一部を、その都度のいろいろな場面や事態に遭遇した時、一部の強調して取り出した心の働きに相手も早く同調してもらえようせき立てる心の働き。



## ■ 家 族

人間が自然の法則（リ・インカネーション＝輪廻転生）を学ぶ課程で、「愛と調和」を実践的に体験し味わう具体的な方法として家族が存在しています。

親と子供の関係という家族は非常に親しい結びつきで、利害や損得を超えてお父さん、お母さん、子供が無償の愛情を本質的に学習するため、親子が心から理屈抜きで何かの時に援助の手をさしのべる、愛のエネルギーを送ってしまうその状態、その体験のため家族があります。

自然の仕組みでの愛と調和は、愛を体験した存在はすべての存在物に調和のとれた愛の振動波（複合系を可能にする物質振動波、エネルギー振動波の無私の供給）を例外なく分かち合うことですが、これを行うためには振動周波数が高く精妙な振動周波数を持つ、未来化が進んだ存在でなければ実現が困難です。

そのため、その成長段階に到達していない存在は、家族の愛という限定した愛を学んで成長することによって、その本質を家族だけではなくすべての存在物に還元できるようになっていく、そのステップとして家族が存在しています。

男性と女性が交際の後結婚して家族を作る場合、父、母、子供の本質生命体は、あらかじめ振動波によるコミュニケーションで、父親、母親の役目を果たす本質生命体は誰がなって、この父、母を選択して子供として生まれる本質生命体は誰か、何人の子供かを決めて事前に学習プログラムを作ります。

父さん、母さん、子供はこの家族関係で何を学習するのか、これもプログラムに組み入れます。

赤ちゃんが誕生した時は、どの赤ちゃんの意識も、赤ちゃんの本質生命体の意識と重なって一体化していますので、非常に調和度が高い状態になっています。

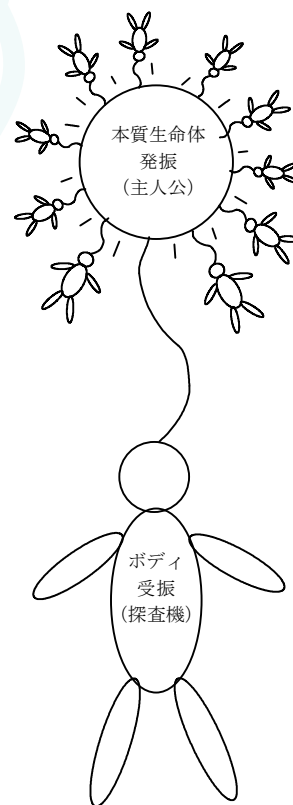
成長して子供が保育園、幼稚園に行く3歳ぐらいから5歳になるまでの間に、母さん、父さんから社会的な<sup>しつけ</sup>躰がされます。

このとき、両親の意識は経済社会の競争原理に沿った仕組みに対応している社会常識を、調和の方向とは逆の、低い振動周波数だと気づかずに子供に教育として躰ます。

その結果、だんだん本質生命体の意識と子供の顕在意識が分離されて、だいたい5歳ぐらいになるとお母さんとお父さんの意識に同調して一体化してしまいます。

この頃から家族の人たち相互の学習が本格的に始まります。

（※生まれた時の本質生命体は調和が取れているので、宇宙から入ってくる情報は常に「本質生命体」にコミュニケーションされる。→「波動の法則」より）



3人の子供を持つ30歳前後のお母さんがいました。

長女がアトピー性アレルギーの子供で、下の長男は元気いっぱい、3人目の次女がアトピー性アレルギーでした。

アトピーの子供が二人とも女の子ですので、お母さんは大人になってもアトピーが直らなかつたら大変心配していました。

母親はとても感性の豊かな人でしたが、子供の病気は自分の持っている知識の範囲内で対処しているため、子供の症状が回復の方向へいかないようでした。

周りからの情報収集、アトピー性皮膚炎の勉強などには全く興味がありませんでした。

お父さんは仕事が忙しく、家庭はすべて母親まかせでした。

二人の子供さんが両親に、自分たちがアトピーという病気になることでメッセージを送っていました。

お母さん、気づいてください。

病気を勉強してください。

勉強を好きになって下さい。

お父さん、もっとお母さんと会話をして下さい。

このように子供さんが両親に気づきを促すメッセージを病気というかたちで送っていたのです。

中学3年生の男の子で一学期から登校拒否になり、高校受験はしないとその生徒が言いました。

なぜ学校に行かないのか聞きますと、彼は言いました。

「先生、友人、クラスのみんなども同じで操り人形のように、汚れているようだ。何だか自分のイメージに合わないから学校へは行かない」と答えました。

彼は成績もよく、自分の身の回りのことは自分でしっかりできるスタイリッシュな男の子でした。両親は二人とも教師で、父親は校長先生でした。

彼は追試で中学を卒業すると働きながら夜間高校へ進学しました。

彼は登校拒否をすることで自分をアピールし、両親に気づきのメッセージを送っていました。

「型にはまった授業、決められたルールの上を走るのは嫌だ、自分を自由にさせてほしい、もっと好きなことをやらせてほしい。」

両親は教育者ですので、社会に立派に通用する人間の育成ということで自分の子供に接していたのですが、自分たちが今まで築いてきた意識、理念が新しい調和の社会に適合しなくなっていることに気づくことなく、固定した意志を子供に強要していました。

子供は親に対して、登校拒否をすることで人や現象の事物が発振しているエゴ意識に気づいてほしいと訴えていたのです。

知的障害者の子供を持つお母さんのお話を聞かせていただきました。

小学校に入学する準備として、学校で子供の知能を測定したところ極端に低くて、先生からお子さんは特殊学級に入学させた方がお子さんのためにも良いですよと言われました。

私は、何で自分の子供に障害があるんだと、自分たち家族の運命を恨みました。

他人の子供が羨ましく見えました。

特殊学級に子供が入学して元気に学校生活を送っている姿を見て、私の心は次第に落ち着いてきました。

天気の良い日でした。

子供を学校へ送った帰り道、公園で遊ぶ小さな子供達を見ていると突然、目の前が開けて閃きにも似た感情が湧き上がり、私は全身が幸福感に包まれました。

障害者の自分の子供に、そして自分自身に暖かい愛を感じていました。

感謝の言葉が率直にでました。

『ありがとう。あなたはお母さんを選んで子供として生まれてくれたのね』。

この気づきの歓びは、帰宅するまで消えることなく体中に残り続けていました。

お母さんは自分の子供としてあえて障害者を選択し、宇宙、自然を学んでいる本質生命体の愛と調和と感謝のメッセージによって、家族の本質に気づき、自然の法則を身をもって体験し学んだのです。

家族は、子供が親から学び、親は子供から学ぶという愛と調和、互惠と感謝の相関関係となっているのです。

現在誕生している子供達は、愛と調和の社会をつくるための意識と意志をもって生まれています。

ですから、エゴ意識をベースにした現在の社会常識に拒否をすることがたびたび起こります。

このことに留意して、お母さん、お父さんは子供に愛情を注いで下さい。

仲良しの友達  
コーヒーカップの  
乗り物で写しまし



庭坂  
保育園で

## ■ 想念観察

恐怖、不安、心配からの決別には、強い決心の精神力が要求されます。

精神力の力は、自分を転換させていく効率的な問いに対して、現在の精神活動の状況によって効率が左右されることの確認がこの時点では不明確です。

なぜなら、私たち人間を悩ましている心の本質をよく理解していないからです。

誰でもこのような状態から想念観察を出発させます。

人間の想念〔想い、感情、心〕は日常の生活を送る中で行動し、体験して味わった精神活動状態をいいます。

### ①初歩の段階の想念観察

想念観察の初歩の段階では、自分が体験して感じたいろいろな想念の精神状況を、客観的にただ淡々と観察することに意識を集中させます。

この作業になれてきたら、自分の中にもう一人の客観視できる自分という存在を置いて、この存在に自分の想念を観察してもらいます。

この方法に習熟してきますと、想念が主人公ではなく、本当の主人公は自分という人間だということが理解されてきます。

「想念」と、想念を持っていて観られている、あなたという自分と、観ている自分との切り離しができて、想念〔想い、感情、心〕が自分でないことが大体わかった段階で次の想念観察に入ります。

ここでは想念の原因究明として、例えば怒り、不安、心配、喜び、嫉妬等の想念がなぜ起こされてくるのか、想念の原因を調べていきます。

次に、その原因は不調和で矛盾を抱えている状態であることが解りますので、調和させるための作業（中和）を行います。

例えば、批判する気持ちになったら「他人の批判は結果として、自分を批判している。もっと自分を愛しましょう」という真理の言葉に照合させて中和させていきます。

また、自分という人間は意識を自然界と調和する方向へ転換して神と一体になったと思ったら、「人間は自然の法則を学び続ける自然界の一生命体です」という真理と照合させ、矛盾点を修正していきます。

修正することは、よく勉強していないから難しいと考えるかもしれませんが、実はそれほど難しくありません。なぜなら「難しい」という想念にはまって「難しい」と思い、勉強を断念してしまうのです。

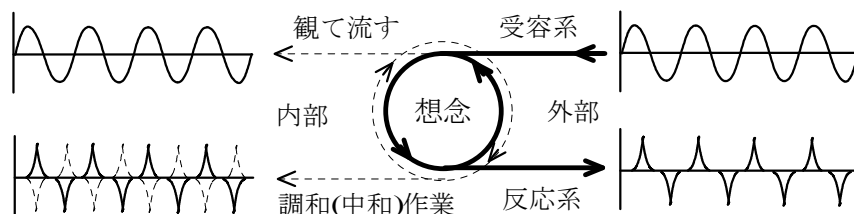
それから早く結果を出そうとして、焦りの想念にはまって難しいと想うこともあります。「毎日コツコツ継続し積み上げること」は難しくないので。

虚心坦懐の気持ちで観察を継続して経験を積み重ね、次に想念の発生原因究明や、修正作業を積み重ねていけば、やがては心の重心が低く安定した清涼感溢れる状態に到達して

いきます。

そして、不安や恐怖のない日々の生活を送れる環境になっていることに気づきます。私たちの前に現れる現象の本質を見抜く洞察力も養われていることを、その都度認識するようになっていきます。

習慣的に刷り込まれたものの見方を解きほぐす作業



想念観察は全て個人の内的作業です。

想念の照合は自問自答形式で行われ、答えも全て自らの中に見つけだせる方法です。

想念観察の想念に関する参考資料や本は外部から取り寄せますが、答えは決して外部に求めることはありません。

自分の言動は自分が学習し理解していますので、責任転嫁も起こりません。

外部に想念観察の結果を責任や原因の追及という形で現れるとしたら、それは観察の甘さや未熟であったということです。

責任転嫁する自分に気づいたときは 想念観察の経験不足からくる、未熟さの指針としてください。

想念観察に習熟して経験を積み気づきが深まりますと、人間は人間の最終成長段階、第5時空層所属の本質生命体とその選択された「身体（ボディ）」になります。

異質であることを受容し、誰とでも気兼ねなくつき合い、自然界の存在と振動波（テレパシー）でコミュニケーションできるようになります。

この成長の道が 私たちの身近なところで対立がなくなり 愛と 調和と 互惠と 感謝をもたらします。

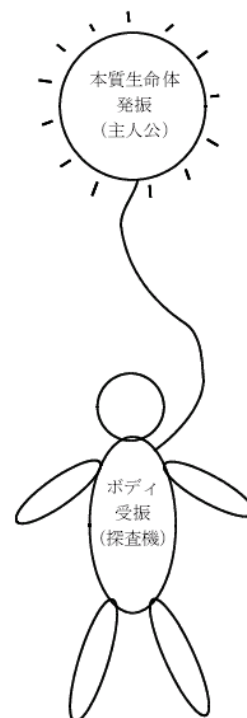
家庭に平和が訪れ、学校に、地域に、社会や国に訪れてきます。

相關関係に目覚めた平和は恒久平和に成長し、地球に訪れてきます。

最終ゴールめざして一步一步コツコツと継続して進みましょう。

初めは戸惑いの連続です。

社会も、自分たちの生活する場も、自分の想念を観ているという客観的なもう一人の第三者の目や意識から、自分という観られている「あなた」を設定する機会を提供すること





がほとんど無いからです。

毎日あるのは、時として他人という第三者の目になったり、ある場面では自分自身になりきったりして、意識することなく自在に想念観察する立場が変化して物事を観ている態度、発言の仕方、癖を潜在意識という自分が自分で一生、あり続けるのをコントロールしている意識に習慣として刷り込んで現象や想念を観ているのです。

これを解きほぐすのは簡単なようで、実はかなりの困難を伴いますが、焦らずゆっくり集中力を高めて進んでいきましょう。

人間の想念は、100人中100人がそれぞれの役割に従って、多少異なった反応をしています。

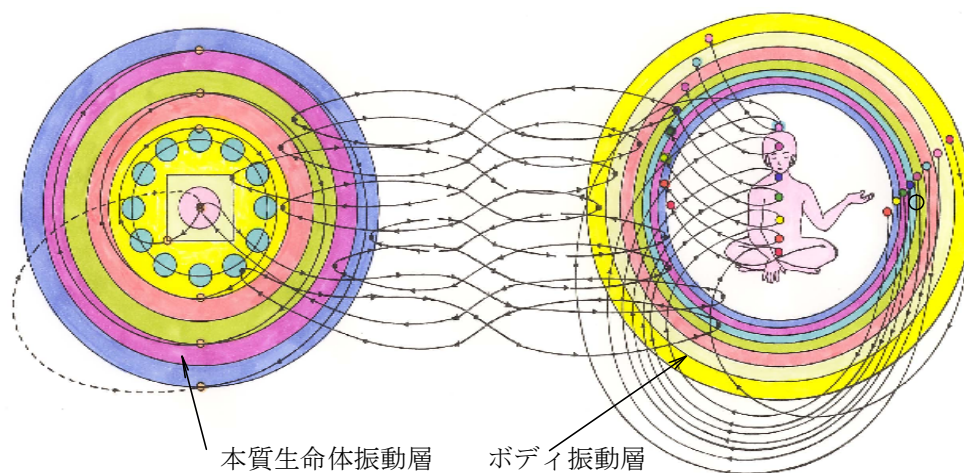
受け取る側の事情によって無限の変化を持っています。

その無限に近い変化を持つ想念を観察し整理していくことは、時としてため息が出るほど大変ですが、慣れると興味も湧いて集中できるようになります。

熟達して洞察力が付いてきますと、想念が宇宙の仕組みの有り様の振動情報エネルギーである8層の振動層のボディ、シン帯、エーテル帯、メンタル帯、コーザル帯に繋がり、人間の本質生命体とそのボディに情報が入り始めます。

その結果、現在の地球の大変化がどのような原因で起こっているのか、その本質も理解されてきますので、身近に起こるいろいろな出来事も速やかに対処できます。

本質生命体とボディのエネルギー循環図  
(メビウス流動によるエネルギー循環)



自然生活館 HPより

本質生命体の振動層 中心から	ボディの振動層 中心から	ボディのチャクラ ボディの下部から
アーンプ帯	アーンプ体	ムラダーラチャクラ
ケーシー帯	シン体	スワジスターナチャクラ
アストラル帯	エーテル体	マニピュラチャクラ
コアード帯	アストラル体	アナハタチャクラ
コーザル帯	メンタル体	ビシュダチャクラ
メンタル帯	コーザル体	アジナチャクラ
エーテル帯	ケーシー体	こめかみ付近のチャクラ
シン帯	コアード体	サハスラーラチャクラ

想念観察は実践しない限り何の役にも立ちません。  
つまり想念を観ていたら、観た味わいを感じるということです。  
観察の体験を味わう、この積み重ねが自分を変えていく原動力になるのです。

想念観察の出発にあたって、私たちは自分に質問してみます。

あなたは理想的な人生を送っているか問いかけます。

ほとんどの人が少々考えて「いいえ」と答えます。

その人の「理想とする人生が」勝ち組と呼ばれる経済的、時間、友人などに恵まれている状態をいうのか、仕事に成果を出して満足している状態か、和気あいあいの家族に囲まれることが理想なのか、それぞれの人に「理想的な人生」があると思いますが、それらを実現できる人は何%くらいいるのでしょうか。

また、理想の人生が現象として感じられる、いろいろな想念の楽しみでしょうか。それとは異なる意味の理想的な人生があるのでしょうか。

何故出来ないのでしょうか。

答えは 自分自身を自由自在に運転できる [人間運転教習学校] で人生の運転実技を学んで [人生運転免許証] を取得していないからとも言えます。

私たちのほとんどが、人生を無免許で運転しているというわけです。

無免許運転では人生の事故がないとは限りません。

理想的な人生の道路を走ることは困難になります。

自分の人生道路を走るのに、他人に運転を依頼することはできません。

ですから [人生運転免許証] を取得しなければなりません。

[人間運転教習学校] では、人間の心を支配している身体の機能と、8層の振動体（※①アーンプ体 ②シン体 ③エーテル体 ④アストラル体 ⑤メンタル体⑦ケーシー体 ⑧コアード体）で構成されている身体の役割を学ぶ必要があります。

### 8つの振動層とその役割

名 称	振動層の役割
アーンプ(AHNP)帯(体)	行動して体験を味わう
ケーシー(KECI)帯(体)	生命活動の意思、意識エネルギー調整口で多角形態になる
アストラル(ASTLAL)帯(体)	コミュニケーションの働きを持ち進化すると交流範囲が拡大
コアード(CHOAD)帯(体)	個体保護の情報を集積する振動層
コーザル(COSAL)帯(体)	あるがまま、なるがままの振動層で癒し、蘇生化の働きがある
メンタル(MENTAR)帯(体)	個体感情表現の振動層
エーテル(EHTEL)帯(体)	より周波数の高い振動波や神を希求する働きを持つ
シン(HCIN)帯(体)	愛と調和、輪廻転生、アナログ自然界の摂理、生命活動に関わる総合波動を包括する振動層

システムとしては [自然の法則] と [自然の時空間の性質] を理解して応用する必要があります。

[想念観察コース] は、まさに教習学校です。  
学校で自分（人間）がどのような仕組みで成り立っているのか知るようになります。  
そして、その運転方法を会得するようになります。  
運転を習うため、今すぐ学校へ入りましょう。

私達は自分の本質を知る質問をよく耳にしています。  
あなたは自分自身を知っていますか？  
あなたは何処からきて、どこへ帰るのですか？  
あなたはなぜ人間として生まれ、人生を送っているのですか？

このような質問に対して、ほとんどの人が自分のことを知らないで人生を生きています。  
今までは知らなくても良かったのですが、社会構造の激変が進み、この状況に対応できる意識転換が求められている事態に、多くの人々が気づき始めています。

グローバルという名の世界経済システムが一部の国で破綻し始め、金融信用不安が深刻化して、貨幣の価値を限りなくゼロに向かわせる事態に入ってきました。

失業がサラリーマンを不安にさせています。

特に深刻なのが 45～55 歳のかつては仕事人間と呼ばれた年代の人々に失業の不安が重くのしかかっています。

この人たちは社会生活、仕事上で豊かな経験を積み、自分の確かな価値観に自信を持っていました。

その自信に裏付けされた価値観という意識が、大変化のこの時代に通用しなくなっています。

何故、地球の文明は激しい変化の波にさらされているのでしょうか。

今まで通りの生き方では夢の実現は困難になってきました。

自分はいったいどのような内容を持っているのか、それを知るためには「内容観察」の旅に出かけなくてはなりません。

人間の持つ「内容」とは、「想念、感情」に相当します。

つまり「想念、感情」のメカニズムを解明し、操作方法に熟達すれば、人生は想いのままになるのです。

観察の出発に当たって、最初に「想念観察はとても簡単で、単調に感じられて難しい？」と断っておきます。

やり方はどなたでも簡単に出来ますが、最初では効果が目に見えて現れるものではないので、途中で断念してしまう方がいます。

効果が容易に自覚できる段階まで辛抱してください。

継続は、必ず変革して成長する自分の姿に喜びを与えてくれます。

それまでがんばっていきましょう。

想念観察が難しいと思うのは普段、積極的に使用していない右脳を働かせるからです。

人間は今まで知識、感覚、判断の機能を持った左脳を主に使用してきました。

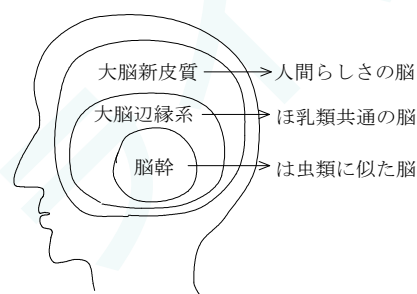
左脳の情報伝達は微弱な電気信号で、五感の検知器から得られる情報を感情や知識として認識する分野を担当しています。

頭脳の5%位の活動率です。

残りの95%は右脳や、古い脳組織の脳幹、間脳、大脳辺縁系の働きであり、情報伝達は脳内物質やホルモンを介して脳を働かせています。

この物質やホルモンは、脳の振動波がアルファ波、シータ波、デルター波の低い波長帯で分泌が良くなって右脳系の働きが良くなることが知られています。

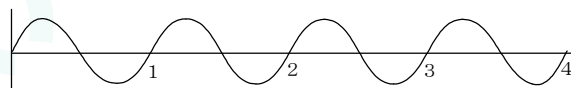
脳の3層構造とその機能



脳波の種類

δ (デルタ)波	0.5~4 Hz	ぐっすり寝ている状態
θ (シータ)波	4~8 Hz	とろとろ眠くなった状態
α (アルファ)波	8~13Hz	安静、リラックス状態
β (ベータ)波	13~40Hz	精神活動時に発生

※Hz (ヘルツ) : 1秒間当たりの振動数を表す。



※1秒間に4回振動したら、4Hz

右脳は脳幹、辺縁系、大脳新皮質の三者の連絡経路を持っており、見えないものを見えるようにするイメージする脳であり、リ・インカネーション（輪廻転生）による私達の太古の膨大な記憶をメモリしている情報伝達系です。

最初に「自分」を観察しましょう。

Q：こんにちは！私は何ですか？

A：あなたは 地球に存在している人間です。そして男性です。

Q：ありがとうございます。私は男性ですが、何の役割がありますか。

A：あなたは 役割を探していますが、その前に大事なものがあります。

Q：大事なものとはなんですか？

A：あなたは 好きなことは何がありますか

Q：はい、好きなことは沢山あります。特に………が好きです。

A：あなたは 好きなことを沢山言いました、好きなことを沢山言った心があなたです。

Q：心が主役ですか、では身体は何ですか。

A：あなたは 心が主役と思いましたが、身体は脇役です。脇役がいないと主役はありません。

ここで気づきました。

自分は心という個性、想念、意識を持っているものだと、そして身体は心を表現する土台みたいな物だと思ったのです。

この感じたことを真理と照合しますと、人間は「全てを知覚認識する意識体」と書かれていました。

人間の本質は肉体ではないのです。

もし肉体なら、100年以内で死亡して身体は無くなってしまいます。

永遠の生命が「自分という人間」であるとすれば、どう思うでしょうか。

本質生命体として永遠に成長しようと思うでしょうか、それとも身体の短い生長時間で良いと思うでしょうか。

それは個人の選択の自由にまかされています。

「自分」を知るためには「想念、心、感情の観察」ということになります。

科学は観察することから始まります。

想念観察も科学です。客観視できる科学者の目が理想的な条件です。

想念観察の方法を説明しましょう。

想念（感情、思考、心の動き、想い）などを、全く感情を入れずに観察できる第三者を自分の中にイメージして置き、自分の想念を観てもらいます。

「今日は大掃除する日だよ、お手伝いして」

「ごめん、お母さんから一週間前掃除の手伝いの話聞いたけど、ボランティアの方が大事だから、今日はそちらに行くよ」

この会話を聞いて『約束は守らない、自分の都合を優先する、良くないなこんなことでは』という想念が心の中で起こって来ました。



このような想念の流れの中に自分を巻き込まないで、つまり感情の中に入らず、第三者になりきってただ客観視してください。

「想念観察は簡単で、しかし難しいと文章に書いてあったけどどうやるのかな」

この中で想念は「想念観察はどうやるのかな」と流れました。

「想念観察は難しくて出来ない、だからやめよう」

この想念を観て流してください。

「でもあの人は上手くいっているのに、うらやましい」

観て流してください。

「自分はダメな人間だから何もできない、あの人はいいね出来て、悔しいね」

やきもちの想念に引き込まれて、ネガティブな想念の流れが起こってその中に埋没してしまいます。

良い想念も、暗い想念も、初めはすべて観て、洗い流してしまう練習の繰り返しが必要です。

その訓練が進むと、やがて、想念が「自分というあなた」ではなく、単なる条件反応であることが理解されてきます。

おいしい料理を食べれば反動的に「おいしい」という想念が流れ、まずい食事ですと「おいしくない」という反応が流れます。

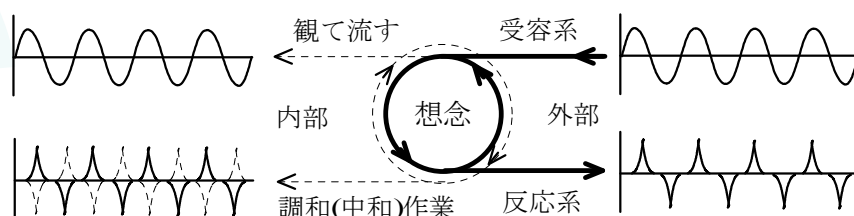
条件反応は身体の反応装置にインプットされたシステムで、脳の検知器から伝わった情報が脳新皮質でおいしい、おいしくないと確認するシステムなのです。

とにかく観察初歩の段階では、ただ流れてくる想念を客観視して確認（気づく）していれば良いだけです。

ネガティブな、ポジティブな想念にも影響を受けず、自分とは関わり合いがないものとして、距離を置いて流すことが出来るようになってきます。

そして想念（心）が自分でないことに気づくことが多くなれば、初歩の想念観察段階は卒業になります。

#### 習慣的に刷り込まれたものの見方を解きほぐす作業



## ②中級の段階の想念観察

中級の段階は、想念の積極的な応用に入っていきます。

応用するのは、自然の摂理に適合した真理の認識が基準となる尺度として必要になります。

この真理は 想念観察 がさらに深まると、新たな確認（気づき）が発見されてきますので、ある段階での基準だとしてこれに強く固執しないでください。

なぜなら、分離意識（エゴ）を生じやすく 想念観察が前進しなくなるからです。

宇宙の言葉に「皆、等価値価値です プラスもマイナスも無いのです。元々は一つで、あなたは私、私はあなたです」という言葉があります。

「あの人は嫌な人だ、何とかならないか」という想念が流れてきた場合、「あの人は私です。嫌な人は私です。何とかならないかのはわたしです」に置き換えてみるのです。

すると、そこに自分の姿を見せられていることに気づいたり、「嫌な人」が妙に愛おしくなってくるのです。

「全ての現象は自分が創造したものです」というのも宇宙の原理です。

「あの人のせいで、こんなになった」とか「この環境が私の運勢を悪くした」というような責任転嫁の想念が流れてきたとき「あの人は、私の責任転嫁を教えてくれた人」「この環境は私が造り出した」と置き換えてみると、あの人や、環境に感謝したくなるのです。

責任を転嫁してイライラしていた状態が、その想念を認めて宇宙の原理に当てはめることによって感謝の想念に変わってしまうのです。

中級の段階では、想念を宇宙の言葉や原理に照らし合わせて、整理統一していくという内容が多くなっていきます。

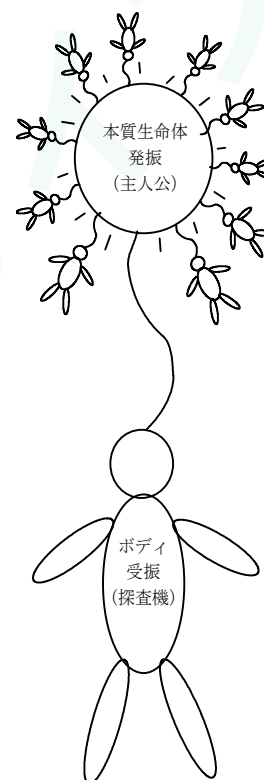
観察が進むにつれて「どうして、なぜこのようになるのかの自問自答」の想念が次第に増えてきます。

そして、なぜを掘り下げていく事によって、あなたや、自分の奥に隠されていた古い想念や、予期せぬ想念が浮上ってきて、観る、洗い流すをして、または宇宙の法則、原理、真理等に照合して統一させるを繰り返しながら愛と調和を深めていきます。

この頃から、人によっては想念観察の壁に突き当たります。

応答や反応が無く、興味や成果が上がらなくなるので自然とやらなくなるのです。解決方法はあります。

要点の一つは、分離意識（エゴ）を徹底して低く押さえ込むことです。



エゴの意識を1%以下に保つようにします。

愛と調和の学習発展の平行時（※平行線の状態）に油断してエゴを払拭しきれずにいると、時空間に存在しているエゴ意識振動波生命体と一気に同調し激しく共振して、周りの人が驚くほどエゴをむき出しにしたり、体調がどん底の不調になったりしてしまいます。

ボディのエゴが1%以下で安定していると、本質生命体（※原子核の集合体＝EXA PIECO）の8層の振動層、シン帯とケーシー帯とボディの8層の振動体、シン体とケーシー体が、それぞれ面对称的にエネルギーの交流が完成し、本質生命体の未来の時空間からのメッセージがボディ（思考、解析、洞察、相関、愛、調和、感謝、互惠、原理）に直観、閃きとなって受け取れるようになります。

本質生命体（EXA PIECO）とボディの振動波の層の接続表

本質生命体の振動層	ボディの振動体	ボディからの距離
①アーンブ帯	①アーンブ体	0～10cm
②ケーシー帯	②シン体	10～20cm
③アストラル帯	③エーテル体	20～40cm
④コアード帯	④アストラル体	40～50cm
⑤コーザル帯	⑤メンタル体	50～60cm
⑥メンタル帯	⑥コーザル体	60～70cm
⑦エーテル帯	⑦ケーシー体	70～90cm
⑧シン帯	⑧コアード体	90～100cm

※本質生命体とそのボディは、振動波がメビウス状にねじれて接続される。

☆「波動の法則」足立育朗著 ナチュラルスピリット刊

### 8つの振動層とその役割

名称	振動層の役割
アーンブ(AHANP)帯(体)	行動して体験を味わう
ケーシー(KECI)帯(体)	生命活動の意思、意識エネルギー調整口で多角形態になる
アストラル(ASTLAL)帯(体)	コミュニケーションの働きを持ち進化すると交流範囲が拡大
コアード(CHOAD)帯(体)	個体保護の情報を集積する振動層
コーザル(COSAL)帯(体)	あるがまま、なるがままの振動層で癒し、蘇生化の働きがある
メンタル(MENTAR)帯(体)	個体感情表現の振動層
エーテル(EHTEL)帯(体)	より周波数の高い振動波や神を希求する働きを持つ
シン(HCIN)帯(体)	愛と調和、輪廻転生、アナログ自然界の摂理、生命活動に関わる総合波動を包括する振動層

次の要点は 光の瞑想です。

自分の最もリラックス出来る姿勢でゆったりした自然呼吸を行い、自分の脳裏に投影される美しい色彩の光を観ます。

そしてイメージの世界に浸ります。

最初は鮮やかな青い光が現れて、瞑想状態に入ったことを知らせてくれます。やがて黄色の光がみえて、意識は深い深層意識界に入ります。

さらに瞑想が深まりますと、ピンクから淡い赤色の光がみえ始め、意識は深層集合無意識界に入っていきます。

瞑想はここで止めるようにします。

ピンクや淡い赤色光、黄金色等の光は、光の瞑想の最終段階ですので、黄色の光がみえれば充分です。

想念観察で開発されてきた右脳が、脳波の日常的な安定した低下が瞑想によってもたらされ、さらに活性化していきます。

脳波の種類

$\delta$ (デルタ)波	0.5~4 Hz	ぐっすり寝ている状態
$\theta$ (シータ)波	4~8 Hz	とろとろ眠くなった状態
$\alpha$ (アルファ)波	8~13Hz	安静、リラックス状態
$\beta$ (ベータ)波	13~40Hz	精神活動時に発生

想念観察は右脳の開発を進めると同時に左脳の活性化も促し、バランスのとれた精神活動へ私達を導いてくれます。

地球惑星の頂点に立つ人間の脳は、自然の法則を学びながら成長していく過程を、振動波の記録として脳細胞に記憶させています。

体験の味わいという人生の学びは感情を生み出す心はその都度、味わった状態を波動の周波分類に区分けして、膨大な生命活動の記録とプログラム造りというかたちで、本質生命体（靈魂）のカルマ（因果律）が決定されます。

生物学の分野では、生命の進化に基づいて種の生命活動と脳の働きを解明してきました。種の進化を促す必要条件、種が持っている固有の行動形態を解析することで、進化の謎を一つ一つ明らかにしてきました。

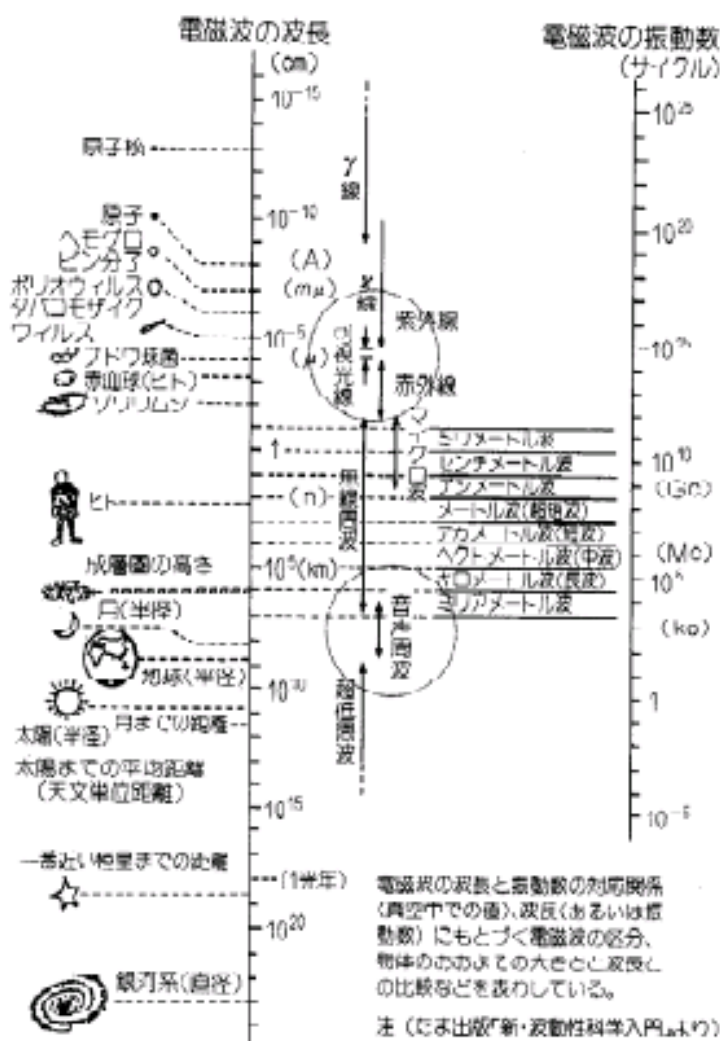
人間の脳は成長の記憶をメモリしている分野と、緻密で複雑な行動分野をコントロールする二つの機能を持つに至りました。

このことは、現象を科学することで積み上げられてきた進化論をさらに発展させていきます。

二つのコントロール機能は、想念観察からもたらされるバランスのとれた精神活動（調和のとれた精神活動）と同じなのです。

バランスのとれた精神活動から得られる生物の進化は、本質生命体と選択されたボディ、そして私達が存在している時空間の本質、この三つの要因を組み合わせた進化と自然の法則の新たな進化論を構築していきます。

### ものの大きさと電磁波の波長



☆「波動の法則」足立育朗著

ナチュラルスピリット刊 より

### ③最終段階の想念観察

想念観察の最終段階は、大部分、本質生命体と肉体を持つあなたとの対話形式になります。

想念は限りなく単純化されてきます。

この頃から、人によっては究極の宇宙意識の情報層にアクセスが可能になりますので、宇宙の仕組みが原理情報として入り始めます。

この情報は精妙で複雑な様ですが、整理しますと単純明快になります。

地球固有の情報層にアクセスして情報を受け取る人もいます。

この場合は、人間の意識の深化に関連した情報が多くなっています。



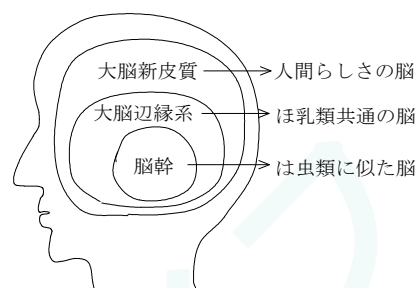
最終段階に近づいたら、意識を積極的に正気〔日常の生活意識〕に戻していきます。  
精神世界と日常の現実生活との隔たりが大きくなりますと、精神世界に埋没したい誘惑に駆られます。

ここからまた エゴが実に巧みに囁きかけてくるのです。  
正気の実体化は、直観に頭在意識も参加させ、時空間から未来情報を受け取るようにします。

情報の入手、そして行動して具体化、この繰り返しが正気の実体化です。

正気のなかで脳の働きも活発になり、人間本来の頭脳活動は 脳幹、大脳辺縁系は4次元、5次元のコミュニケーションと理解を受け持ち、大脳新皮質は「調和」の具体化と思考分野を発達させていきます。

脳の3層構造とその機能



想念観察の要点をまとめますと「想念を観ている」とは、「観ている姿勢、観ている世界、観ている時空間」と置き換えることもできます。

観ていることに私的な感情を持ち込むことなく中立の目で、観ているあなたと、あなたが想念として感じている自らが行動して現実化している現象は、一心同体で存在しています。

あなたと現象は分離して存在しているのではなくて「一緒」なのです。

一緒という「一体化」は自然界の現象を造り出している「時空間のエネルギーが循環し、複合系の組み合わせ系から森羅万象が形成される」自然の時空間と相似象なのです。

そして「実現可能な情報エネルギーとしての時間エネルギーは、人間の現実化する 行動エネルギーに対応している」。

「情報を演算して処理する を 空間エネルギーは、エネルギーの複合化の組み合わせを行って現象形成している」。

これは人間が「行動して現実化の事物を造り出しているのに対応している」という自然の原理（エネルギーの流れ）なのです。

観ていることはまた、瞑想の状態です。

座って目をつぶり、じっと内観している状態だけが瞑想ではありません。

日常生活の中で観ている世界、観ていることが連続している状態があれば、これも一つの瞑想なのです。

一日中、その時、一瞬があなたの観られている世界が呼吸と同じように普通のことだと気づくようになれば、見えない世界を観ていて見えるようにする右脳の活性化と、観られているあなたから観ている自分の確認（気づき）が鮮明になってきます。

気づきが深くなってくると、観ている自分は「自然の法則の一員として、リ・インカーネーション（輪廻転生）を繰り返して宇宙を学び究極の宇宙意識まで成長していく」のを、人間のボディを選択して宇宙を学んでいる本質生命体（靈魂）が想念の体験を味わう主人公で、観られているあなたの身体が主人公ではないと気づくようになってきます。

そして、観ている自分の意識は限りなく本質生命体の意識と同化していくようになります。

想念を造り出しているあなたは、行動する毎に次から次へといろいろな想念を観ている自分に与えてくれます。

人間は多種多様な想念を持っているマルチ生命体なのです。

マルチ生命体の想念を検証しながら、エゴ（分離意識）をあなたから除去していきます。

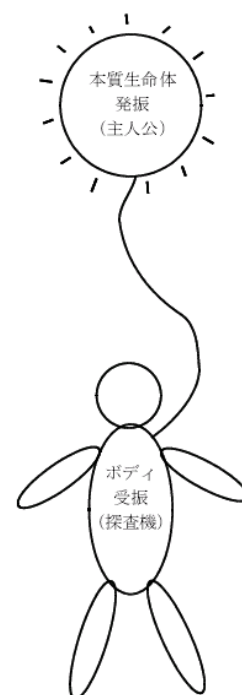
除くことによって、人間を永い間拘束してきた「二律背反のデジタル意識」からあなたを解放します。

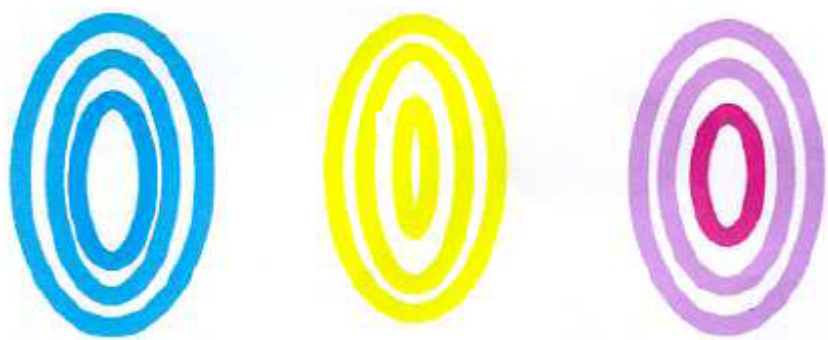
解放は人間を成長させ、4次元や、5次元的視野で思考し行動する自然界本来の、相関関係（アナログ）を基本とした生命活動に転換していきます。

想念観察は、本来の人間の役割に気づいて、創造し、人間として生きたという生き方を学ぶ一人でコツコツ継続して学ぶ教科です。

大変化の現在ですが遅くはありません。

想念観察の卒業を目指してがんばりましょう。





地球さん	こんにちは	私は光	私は光	私は光
太陽さん	こんにちは	私は光	私は光	私は光
銀河のみなさん	こんにちは	私は光	私は光	私は光
すべてのみなさん	私は光の存在 こんにちは	私は光の存在	私は光の存在	私は光の存在

上記は光の瞑想で、脳裏に見えてくる各光に対してのイメージの言葉です。  
言葉も心の中でイメージして下さい。  
集中力の鍛錬に有効なイメージトレーニングです。

## ■ 未来・現在・過去

宇宙は時間と空間が一体化した振動彼の複合系ですから [未来] は現在より周波数が高い状態で、[過去] は現在より周波数が低く荒い状態です。

波動の性質に同調、共鳴、干渉があります。

過去の荒くて低い振動波を修正するためには、過去の出来事を改める方向で、すばらしい未来がくることを確信して決心し、調和度を高める行動を現在に集中して全力で取り組みを継続させることです。

強い決心の調和度を高める行動振動波エネルギーが過去の振動波と干渉し合い、干渉波の性質で、過去の振動波が現在の優位な振動波で干渉コントロールされ、過去の周波数が上昇して過去が修正されます。

修正された過去の振動波は現在の振動波と同調するようになり共鳴します。

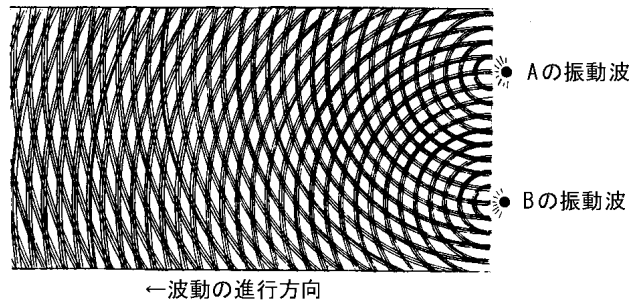
（※「決心」すると、本質生命体＝EXA PIECO の原子核の数が増える→発振と受振が増える。→「波動の法則」より）

この同調と共鳴は、現在が過去に影響を与えていることになり、二つの振動彼の同調と共鳴は次第に複合系の振動波を形成して、同時空間に存在している未来の振動波と同調して波動エネルギーが増幅され、全体の振動周波数がさらに高くなっていきます。

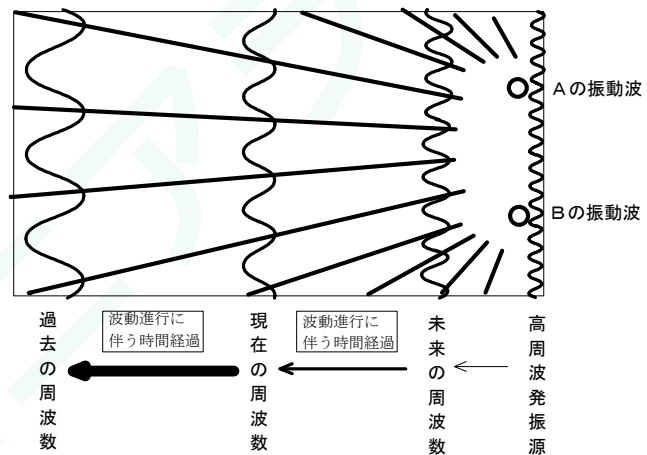
これにより [現在] の時空間を飛躍的に向上させることができますので、素晴らしい [未来] が訪れてきます。

（時間は情報の提示、空間は情報処理の演算速度になります）。

干渉波の2重スリット実験



干渉波による周波数の低下現象



※高周波発振源の周波数を現在の所へ持ってくるように行動すると、現在が未来化される。

このように、時空間はどここの複合系の窓を開いても、その時点で各存在に必要な情報処理の可能性を提供します。

可能性はその存在が体験した過去へ瞬時に回帰させ、行動の再調整を促し 現在の未来化を実現します。

本質生命体と選択されたボディの行動と体験の味わい、これが未来化への可能性です。

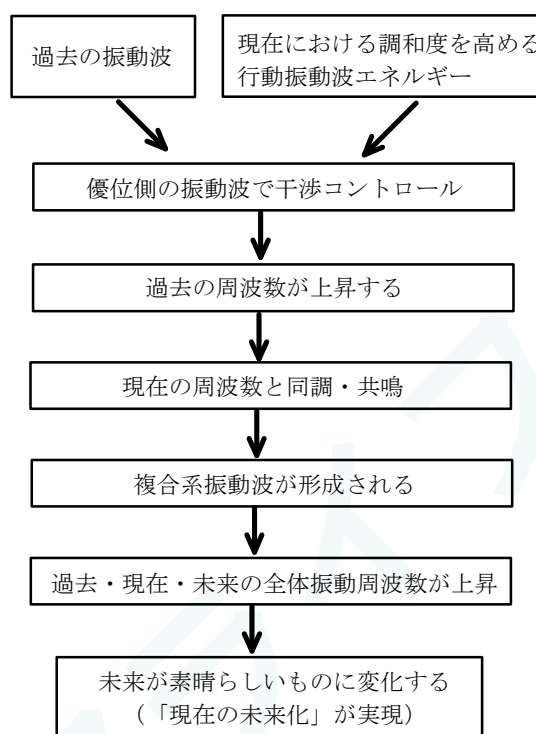
時空間の本質は、複合振動波の精妙化とダイナミックハーモニーです。

現在の振動周波数が過去と未来の振動波に影響を与えることはできますが、未来の振動周波数が過去と現在の振動周波数に影響を与えることはできません。

それは、振動波修正の可能性が現在に存在しており、そして現在と過去の周波数の違いにより未来からの情報は、現在より過去へは入りにくくなっています。

事象から見ますと、受け入れ準備が充分整っていない存在に必要以上の未来からの情報は、混乱をまねき 不調和を生み出してしまうからです。

ですから、すべての調和の方向への実践行動の出発点は現在なのです。





時空間の波動エネルギーは循環していますので、波動の組み合わせは常に変容し、再編されています。

仏教のことばでは無常です。

変動し再編されるごとに周波数が高くなっていく、これが時空間エネルギー流動の原形パターンです。

意識を転換し時空間の本質に気づき、未来からのメッセージを受振し直観と行動の連鎖によって現実化の効率を飛躍的に向上していきます。

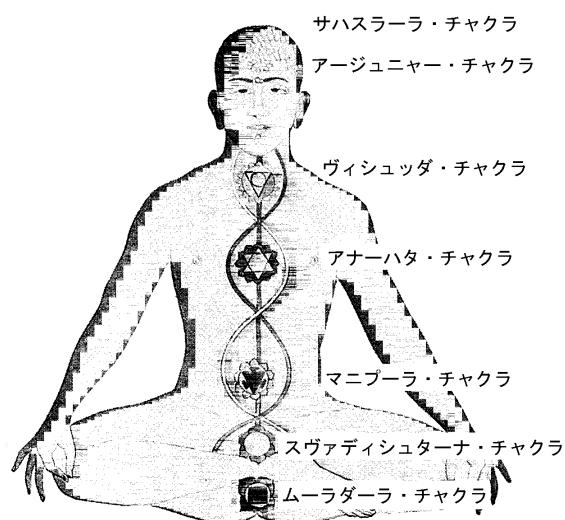
時空間は未来と過去の情報が記憶として保存されていますので、いつでもどこでも情報の入手は可能です。

本質生命体を通してメッセージを受け取ります。

さらに積極的には、自分の顕在意識を動員して行うこともできます。

これを可能にするには、本質生命体とボディの導通路であるチャクラの活性化と、感情のニュートラル化、自我の意識を限りなく低く抑えることが必要条件となります。

7つのチャクラ図



（※本人が安定して調和のとれた高い周波数で同調し続けて、いかに自我の振動波を発振せず、願望や 推理 推測を入れな  
いで受振できるかにかかっているようです → 波動の法則 より）

宇宙の時空間概念の位置からみますと、民族が融合し合い、人間と自然が調和し自給自足の生活形態で集落を作り生活していた縄文時代中期の頃が、現在より未来です。

（現象世界にいる私達人間は、時の流れを時間、広さに時間を加味した概念を空間としています。

実際には現象世界そのものが、時空間の性質を生かして造られていることを人間は理解する必要があります。時間や空間は波動の複合系です）

## ■ 創造活動と組織・人間

地球上の生物は、個々の存在がそれぞれの役割にふさわしい働きをするため集団を作り、集合形態を形成して社会の基盤を作っています。

植物の樹木が集まり豊かで広大な森林を作って生物の宝庫となり、草食動物が群れを作って個々の安全を確保するため移動しながら生活しています。

人間は社会の仕組みが経済活動を中心としているため、利益を生み出す組織の中に個人が参加して組織の一員として労働を行い、文化、経済の創造活動を行っています。

人間以外の生物は、集合を作る自らの意識は集合意識として働き、個々の存在を強く意識する意識の固定化はありません。

ですから自分以外の存在の領分を侵して自分の権利を主張することなく、個々の役割の範囲内で調和しています。

人間は顕在意識や大脳新皮質の発達によって自分たちの生活に便利なものを作り、生産の拡大によって物流が生まれ、経済社会が作られました。

人間の意識は、現象に現れる様々な事態を自分の体の保護に大部分を作用させるため意識の固定化傾向に至り、その結果多様な苦悩を経験してきました。

組織の一員として働く人間にとっての苦悩は、人間関係の軋轢からうまれる感情にストレスを感じています。

組織に参加している人は多様な人生経験を積んで働いているため、自分の経験の価値観を優先しがちです。

人間は人から自分を認めてほしいという希望を持っています。

人から認められることで、社会的に認知された人間として生きていけるという安心感を希求するのです。

心の安定や、幸福感は感情の一つとされるものです。

感情の乱れから生まれる苦悩は、人間の精神的なバランスが崩れてそれを元に修復しようとする心の働きから起きます。

また苦悩は意識、意志の固定化から発生してきます。

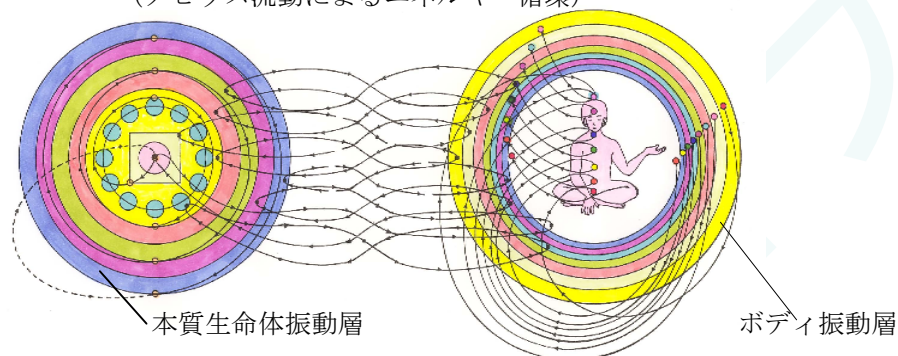
本来人間は、人間として一生の間、宇宙の時空間で何を学ぶのかあらかじめプログラムを組んで誕生しています。

プログラムは本質生命体の学びの蓄積であり、その具現化はボディがおこないます。

苦しみの原因となる感情の起伏は 本質生命体 のプログラムに即していない行動を ボディが取り、宇宙の時空間と本質生命体とのエネルギー流動に滞りが生じて、時空間のエネルギー振動波に同調して調和度を高めていくという自然の法則に適った状態でないとき「苦しい」と感じる状態が発生してきます。

苦しみの感情は、焦り、嫉妬、怒り、哀しみなどのネガティブな感情反応がおこります。喜びや感動は、その人間が本来のプログラムにより即した行動をとっている時に感じるポジティブな感情反応です。

質生命体とボディのエネルギー循環図  
(メビウス流動によるエネルギー循環)



本質生命体の振動層 中心から	ボディの振動層 中心から	ボディのチャクラ ボディの下部から
アーンプ帯	アーンプ体	ムラダーラチャクラ
ケーシー帯	シン体	スワジスターナチャクラ
アストラル帯	エーテル体	マニピュラチャクラ
コアード帯	アストラル体	アナハタチャクラ
コーザル帯	メンタル体	ビシュダチャクラ
メンタル帯	コーザル体	アジナチャクラ
エーテル帯	ケーシー体	こめかみ付近のチャクラ
シン帯	コアード体	サハスラーラチャクラ

### 8つの振動層とその役割

名 称	振動層の役割
アーンプ(AHANP)帯(体)	行動して体験を味わう
ケーシー(KECI)帯(体)	生命活動の意思、意識エネルギー調整口で多角形態になる
アストラル(ASTLAL)帯(体)	コミュニケーションの働きを持ち進化すると交流範囲が拡大
コアード(CHOAD)帯(体)	個体保護の情報を集積する振動層
コーザル(COSAL)帯(体)	あるがまま、なるがままの振動層で癒し、蘇生化の働きがある
メンタル(MENTAR)帯(体)	個体感情表現の振動層
エーテル(EHTEL)帯(体)	より周波数の高い振動波や神を希求する働きを持つ
シン(HCIN)帯(体)	愛と調和、輪廻転生、アナログ自然界の摂理、生命活動に関わる総合波動を包括する振動層

〔感情の起伏〕は、自分が自分の自我に対してどのように対処しているかチェックするときの反応です。

そして、イライラは感情のバランスをとることの必要性を示している頭脳の顕在意識へのメッセージです。

そのため、イライラを感じる時は、自分の自我や自分という存在が宇宙の時空間でどれくらい自然と調和しているかその尺度も示しています。

組織内の人間関係で生まれる感情の起伏で一番多いのは反発です。

人間は自分という存在を周囲に認知してもらえるように、自分の情報を発振しています。基調となる周波数が重なる人間間では共鳴現象がおきます。

これは自分を知らせる情報を発振している人間がこの面で自分を認めてくれるベストだという周波数帯域があり、その周波数帯域を相手が認めてると、その人と〔波長が合う〕と表現されます。

波長が合う人とは友人関係であり、互いに認知し合います。

人間は複数の自己宣伝情報を発振しているため、わずかな帯域で重なり合うと同調して共鳴現象が起き、互いに親しくなりますが、認知し合うエネルギーが一方の人が強力なほど他方の人を同調させ自分のペースに巻き込もうとします。

その状態を避けて現状を維持しようとするため、拒否しようとする反応が〔反発〕となって現れます。

「反発」は自分の価値を固定化して、自分の価値に相手が見合うかどうか比較検討する〔自我〕が関わっています。

宇宙の時空間は、究極の宇宙意識の「愛」の振動波であるクオークのエネルギーの海です。

（※クオーク（CAU）とは、物理学的には原子核よりも小さな素粒子の意味であるが、この場合は物質化しておらず、米粒のような形に回転運動しているエネルギーの意味。→「波動の法則」より要約）

このエネルギーは、人間が受け入れようとするれば直ちに現象として具体化されます。

このことに気づきより〔宇宙との調和度〕の高い方向へ同調することを受け入れる、これを、〔率直〕といいます。

私たちは、仕事上の計画が実行できなかつたり、計画以外の現象が起きてしまうことなどを〔失敗〕とっていますが、真の失敗は現象自体を指すものではありません。

計画を立てて、宇宙との調和のとれた方向で実践行動をしようとしながら、思うようにいかないで逆の意識を生起させていることもあります。

その結果、現象に不調和な状態がおきていることに気がつけば、通常決定的な〔失敗〕

はありません。なぜなら、いくらでも修正が可能だからです。

〔決定的な失敗〕とは、人生の転機で人間の本質に気づく機会を逃し 本質生命体とボディの成長するタイミングを失うことと、現在自分自身の本質生命体とボディの役割にふさわしい行動をしないで、自然の法則からはずれた行為を行い、本質生命体の成長を止め収縮を招くことです。

これからの組織理念は、

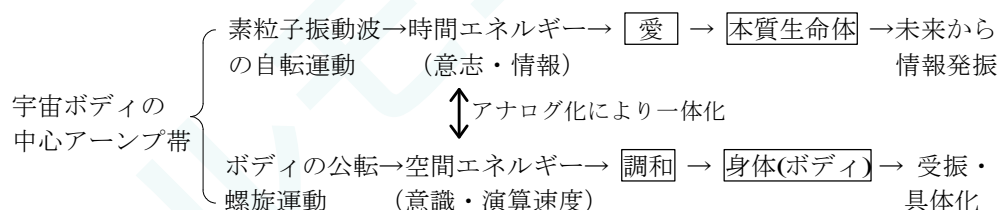
- ① 自然の法則に同調して自然との調和度を高めていくこと、
- ② エントロピー（※無秩序）を減少して蘇生化を促すものを社会に供給すること、
- ③ 需要と供給の バランスをとって生産し、自然の生態系のリズムやバランスを崩す過剰な物質は作り出さないで、必要限度以内に止めて地球の環境を守り永続できる社会や豊かな自然育てること、

これらのための組織活動になっていきます（※原文を一部修正）。

人間は、自己を永い間束縛してきた自我から解放され、シンプルな体験を積み重ねることから、宇宙と同調して具体化することが極めて高い効率であることに気づき確信を持ちます。

今後の社会は、異質を受容し合う自主独立した人々の緩やかなネットワークによって現在の社会が見直しされて愛と調和の社会へ再構築されていくことになります。

### 宇宙の仕組み（時空間）の根本原理





## ■ 不安・心配の心

不安や心配を起こす心は、テレビ番組で放映される食わず嫌いという番組を見るとよく理解できます。

ペアの二組がいて、ペアの一人がゲスト出演者でゲストの嫌いな食べ物をペア同士の対戦でそれぞれのメニューを賞味して、先に嫌いな食べ物の正解を出した方が勝つゲームですが、嫌いな食べ物を指摘されたゲスト出演者に共通してあるのは、過去にそれを食べて肉体的に強いストレスを受けて苦痛を味わったとか、精神的に大変嫌な思いをしたという過去の経験が感情の記憶のファイル(脳の各機能)に蓄えられていたということです。

料理という見たものは、情報として大脳新皮質の後頭葉の視覚野に伝わります。ここで情報は二つに分けられ、一つは側頭葉に送られ、情報に関連している人物は誰なのか判定されます。

自分であると判定されますと、記憶の入り口にある脳の奥にある海馬<sup>みいば</sup>に伝わり、最近の自分に関係している記憶のファイルが開きます。

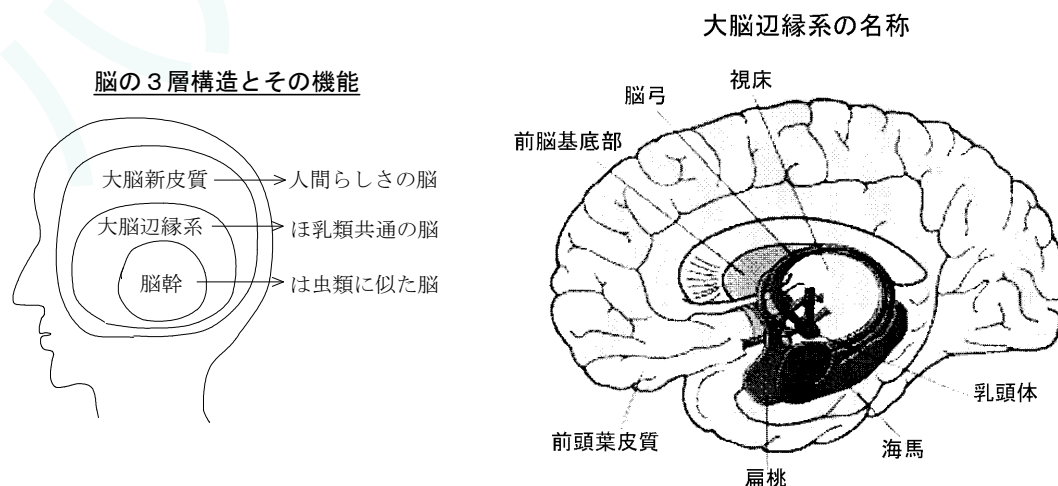
それと連動して前頭葉の過去に関する記憶のファイルも開き 過去や最近の記憶が開示されます。

もう一つは 海馬の先端にある扁桃<sup>へんとう</sup>に情報が入り、ファイルが開きますと、見たものに関する感情を知ろうとします。

その情報がさらに大脳新皮質の感情ファイルに入り、料理という見たものと、食味した人にまつわる感情を知ろうとします。

大脳の前頭葉は二つの情報を考察して、この料理は以前食べて不愉快な思いをしたので食べるのは止めようと判断を下すわけです。

このような脳の機能が頭在意識 の一部になっています。



頭在意識の主要な働きは、肉体を安全に維持管理するため周囲から情報を集めて選択し、コントロールしています。

このコントロール機能が、不安の心配事に関与しているのです。

不安がある、心配事がある、強迫観念が抜けない、このような同じ思いにいつも悩まされるという症状のある人は、これらの思いを修正したり、悪化させる主体的な決定権はまず自分自身にあるのだと思うことが大切です。

最近のニュースで連日報道されているのが、経済状況の悪化で企業倒産、失業、リストラ等の不安を増大させる内容が目立ちます。

マスディアが私達人間の心理に与える影響は絶大です。

貨幣を根幹にした競争社会経済は、富める人はさらなる富を与え、弱者はさらに困窮の深みにはまって脱出できなくなる、経済格差が世界中に広がっています。

不況の時代に生まれ、不況感が常識として定着してきた時代に育った 20 歳代の若者は、将来の生活に備えた貯蓄意識が高く、お金の使い方が上手で、もっと豊かなものをという意識感のバランス取りが巧みです。

一方、自分の人生体験の中で、好景気時代の喜びを堪能した年代の人達は、気前よく消費にお金を使うことに抵抗感がありませんから、蓄えの取り崩しが進み貯蓄率がどんどん低下しています。

使いたくても手元にお金が無い、無駄金は使わない、資源高騰のあおりでインフレ傾向が顕著になり物価が上昇している等の影響で、お金と物流のバランスが狂って全体に流通量が減少すると、経済活動に従事しているあらゆる分野に入る金額が減少していきます。

物価は上がる、格差は拡大する、収入は減少傾向にある、将来に不安がある等、現在は今まで続いてきた経済システムを見直す時代に入っております。

資本主義は常に、常に売り上げを拡大しなければ維持できない仕組みです。まだ大多数の人々が今までの仕組みに養われた社会常識に拘束されて、新しい意識に転換できずにいるため、景気回復を、安心して暮らせる社会環境をと訴えているのです。

人間は常に自分が不安視している現実が、目の前に現れてくるかもしれないと肯定する気持ちがあります。この不測の事態を予測する心の有り様は、心配事や不安に対して過敏に反応する脳のファイルが日常的に作られ、潜在意識に刷り込まれた習慣、癖、ものの考え方として人間を拘束しています。

このような事態に気づき、一人一人が間違ったファイルがあったらそれを直し、不必要なら捨てると思うことが大事で、不安な現象が主人公ではなくて、客観視できる自分が主人公だと思う意識転換が大切です。

## ■ 色彩

宇宙空間に点在している天体の色は鮮明な色彩です。

ハッブル宇宙望遠鏡で撮影された天体写真集に載っている星雲や星々は、鮮やかな色彩で彩られています。

この美しい色は、私たちの詩的な感情を呼び起こすほどエネルギーを持っています。

美しい色を鑑賞するとき、一人一人がどのような感情を持っていたのか、心の状態で受け取り方が変化してきます。

色は基本的に目で観るものですが、聴くことも、感じることも、味わうこともできます。

色はそれぞれ特定の周波数があり、それに対応して意味を持っています。

赤： 作り上げるとき基本になるエネルギー。体感・律動・情熱

黄： 成長を進行させるエネルギー。新しい分野の方向性・希望

オレンジ： 成長が成熟する。新しい展開のためのエネルギー。蓄積・ロマン

緑： バランス・調和のエネルギー・安らぎ

青： 時空間と自分自身をつなぐ回復のエネルギー。静かで穏やか

紫： 意識を進化するエネルギー。気づきの深まり

白： すべてのエネルギーを統合する。自我の超越

金： 時空間の全ての存在が集合したエネルギー振動波。究極の宇宙意識の光と振動波

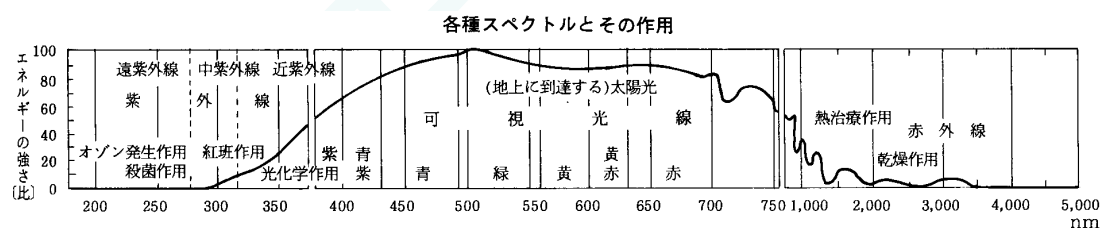
ピンク： 宇宙の愛。無私の愛、慈しみ、援助し合う

マリブルー： 無私の調和。静寂、意志と意識の深化

黄緑： 共栄への呼びかけ。発展、共生共存、友愛

茶色： エネルギーの供給。受け入れる、支える、保護する

ブラック： エネルギーの吸収と保存。包み込む、覆い尽くす、保護する



(※単位換算： 1,000nm (ナノメートル) = 0.001 mm = 300THz (テラヘルツ) = 300,000GHz (ギガヘルツ))

これらは人間の自我が混入していない純粋な色の振動波で、色彩を観て感じ取る人間の思考によって色の振動波は多様な外的、内的エネルギーと同調して人間にいろいろな感情をもたらします。

カーキ色はアウトドアの冒険的なイメージを持たせたり、芥子色は焼け付く熱波の果てしなく広がる砂漠を連想します。自分の好きな色は、身体が発するオーラの色と近似していて、身体、精神エネルギーの混入した色彩が現れてきます。

宇宙の構成要素は 99.99%以上がプラズマであるという、電氣的宇宙論が常識化に向かう現在、色彩はプラズマエネルギーの種類と言えるものです。

プラズマの成因は、クラインの流動からホワイトホールを経て吐出したエネルギーが最初にアーンプ帯（体）を形成します。

3の形態原理（三位一体、三位三体）に基づいて、電磁波、磁気波、物質波が生じます。最初に生じる電磁波は、陽子のエネルギーで時間（意志、情報）に相当し、陽子の回転は静止しているエネルギーはプラズマ状態になっています。

次に生じる磁気波は、中性子のエネルギーで空間（意識）に相当し、中性子の回転は静止しています。

陽子、中性子が回転して電子が発生し、組み合わせから物質波が生じます。

物質波、電磁波、磁気波が回転し、電子が作用して複合が形成されながら生命活動の中心層、アーンプ帯（体）が造られ、他の振動層も完成して生命活動が具体的に始まり、現象世界が形造られていきます（ダイナミックハーモニー、動的調和宇宙の形成）。

プラズマはダイナミックハーモニーの原初の姿です。人間はダイナミックハーモニーの一員ですから、身体という構成要素の原初はプラズマになり、宇宙語で「マジョニティ」（生体を造るプラズマ）と呼びます。

生命の原初はプラズマ（光）であり、色彩も生命活動から生まれたプラズマの種類です。

時空間に多種類の生命体活動が可能な周波数帯域（多次元）が、同時に存在できるのは時間の情報を展開できるプラズマの性質によるものです。

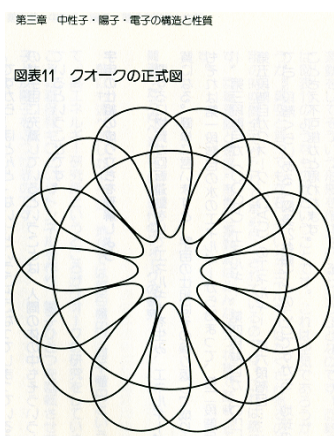
## ■ 男性・女性

自然界で振動波の組み合わせで現象の事物が発生するとき、発生した事物と対局の関係のある物が生み出されてきます。私たちが感じている概念で表現しますと、戦争と平和、調和と不調和、速い、遅いなどの対極の現象があります。

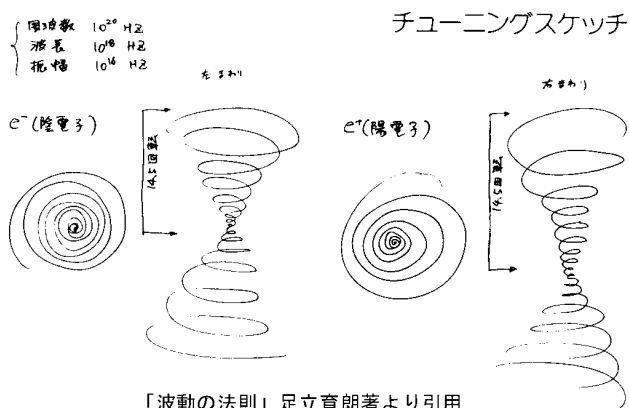
物質の素といえる微細な粒子の物質は、クオークの振動波の複合化によって形成され、中性子と陽子が発生します。中性子、陽子がプラス回転運動をしてエネルギー化しますと、その時空間にプラスの陽電子が発生します。

中性子、陽子がマイナスの回転運動を行い陰電子が発生します。

電子は中性子、陽子の回転エネルギーを結びつける働きを行い、物質を作る原子が生まれます。プラス回転の原子が結合して陽性、マイナス回転の原子が結合して陰性の極性を持つ物質が作られます。

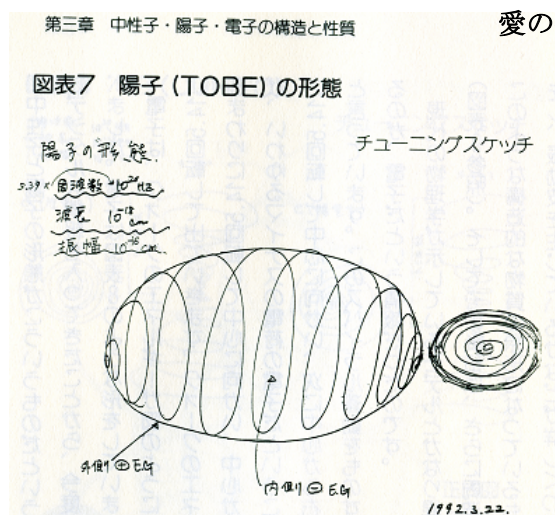


### 電子の回転方向による相違



☆「波動の法則」足立育朗著

ナチュラルスピリット刊 より

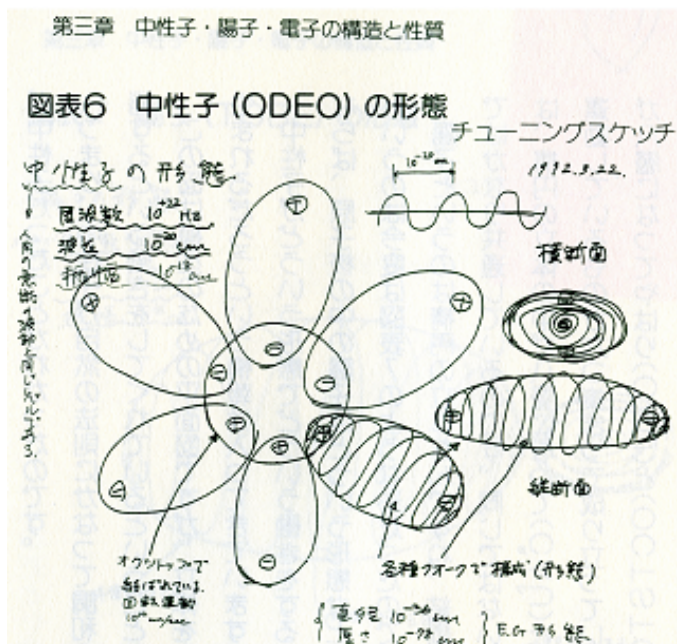


### 愛の振動波＝陽子＝意志

☆「波動の法則」足立育朗著

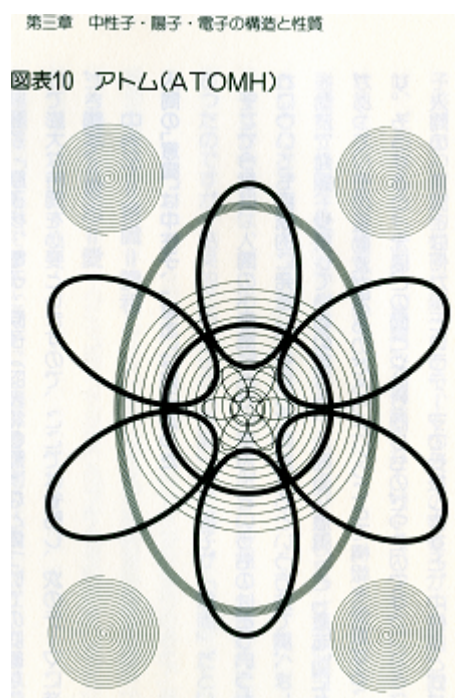
ナチュラルスピリット刊 より





☆「波動の法則」足立育朗著

ナチュラルスピリット刊 より



☆「波動の法則」足立育朗著

ナチュラルスピリット刊 より

物質の種類によっては、陽性、陰性の区別がない両方の性質を持つ物質もあります。

人間の場合は、対極の性質を持つ女性、男性が誕生します。

極性の性質からみますと、女性はエネルギーの収集が巧みで陽性の性質を示します。

男性はバランスを保つ感覚に優れていますので陰性の性質を示しています。

女性エネルギーの流れの働き、女性原理は偏在を指向しています。

男性原理は調整の働きを現しています。

両者の原理は、女性は子供を産み育てながら家庭を守る働きに代表され、男性は家族が生活できる安定した収入を得るため労働を行うという形をとり、女性と男性は対極的な立場にあるとして社会が認知してきた背景がこのような男女の役割を決めてきました。

男女の極性を示す例として、若い男性は交際相手を選ぶ基準として、かわいい、素敵な女の子としてイメージしています。

自分の好みに叶う可愛い女性は、自分の持っている愛情のエネルギーを惜しげもなく使えるという男性の調整指向に適合するからです。

女性は経済力があって、自分を包み込んで愛してくれる優しい男性を理想像にしています。

家族が安心して生活できる収入を確保してくれる人、愛があって包容力の豊かな男性が、女性の偏在というエネルギーを広範囲にわたって集めて、自分に関わる存在を育てて守っていく指向に一致するからです。

結婚は女性原理、男性原理を両者が個のエネルギーの対極的な役割を実践していくかたちで男女が結びつき、生殖を含めた日常生活の営みで出発します。

ファミリーが作られ、子供たちが成長するに従って、男性と女性の役割は対極的な立場から次第に発展成長し、女性は一部分男性エネルギーの流れを体内に保有し、男性は一部分女性原理のエネルギーを所有する形で男女が精神的に成長していきます。

原理のエネルギーの流れからみますと、布地の繊維のように縦糸が主で作られた布に横糸が織り込まれ、より布地の完成度が高まる状態のように、それぞれの極性エネルギーの織り込みが行われてくるのです。

この状態の女性、男性の関係は今まで愛情を主体とした男女間関係を越えた素晴らしい自然な感覚を伴う相関関係になっていきます。

男性、女性の枠を超えたエネルギーの流れは周囲を癒やし、自らを蘇生化する究極の宇宙意識の愛に同調していきます。

エネルギーの極性が極端に互いに偏っている男女の組み合わせは、両方とも自分が持っていないエネルギーを相手に強く求めるため、両者ともエネルギーを消耗するだけで終わってしまい、エネルギー量の差がありすぎる男女ではエネルギーの流れが一方通行ですので、エネルギーが流出して消耗した人は、相手に不満を感じる状態になってしまいます。

## ■ 時間・空間

宇宙はクオークのエネルギーで埋め尽くされている海のような空間であることが、地球の今の文化で基本的には理解されています。

テレビや科学雑誌のメディアで、宇宙ロケットの発射打ち上げの場面が紹介され、人類の宇宙旅行への実現を提供しています。

ロケットや飛行機が飛んでいるのは時空間の移動ですが、現在の地球の文化では時空間の時間と空間を本質的に理解はできていません。

それは、時間と空間を切り離して考えているからです。

自然界から観れば時間と空間は別々でなく、一体化している時空間です。

人間は現象を拠り所として考察するのが習慣になっているので、時間と空間は異なった概念と考えていますが、宇宙がクオークのエネルギーの海であることを基本において考えれば、時間や空間はクオークのエネルギーで成り立っていることが本質的に理解できるようになります。

時間はクオークの振動波エネルギーを段階的に組み合わせた複合系で、それは情報系のエネルギーとして理解されます。

人間がどのようなかたちで時間を感じ考えているのかは、五感を通して脳に入ってくる自然界から発振されたいろいろな情報を現象としてとらえ、また、自分自身が目的達成のため行動しているときの、様々な感情を五感がとらえた現象にクロスさせて、何時に私はこのような体験をしたとか、何時頃このような結果を得たので、明日の何時頃までこの結果を土台にして、意志と意識を働かせ物事を完成しようという形で時間が使われています。

空間は例として、宇宙ロケットが空間を飛行し距離を移動して何時間後に目的地に到達するというので、移動した宇宙空間を現しています。

目的実現のための行動した距離、あるいは仕事の量、仕事率と時間の組み合わせを空間として人間はとらえているのです。

空間の本質はエネルギー情報系の情報を処理する演算速度といえます。

時間と空間が一体化した宇宙という自然界での時空間の本質は、情報というエネルギー量が存在していると同時に情報処理も行われていますので「情報処理」であることが理解されます。

今後、人間社会に時空間の本質の理解がすべての人々に行き渡れば、意識転換を通して得られる、シンプルでしかも効率の高い具体化が本質生命体とそのボディが直接宇宙から情報を直観で入手し、即断即決の具体化で実現されていきます。

この時、私たちは非常に効率が高く速い時間の流れと、ゆったり進む全体の時間の循環を楽しむようになります。

宇宙の仕組みの根本原理となっている アナログ性と、クオークのエネルギーの海である時間と空間が一体化した宇宙の時空間は、なぜこのようになっているのでしょうか。それは、宇宙がボディを持っていてそのボディが常に未来へ向かって、生成発展していく自然の法則に基づくからです。

この宇宙というボディを持っている究極の宇宙意識、意志は、自らに、類似する相関関係と時間と空間の一体化を持つことにより、自然の法則の具体化を完成させました。

回転球体運動の素粒子振動波で構成されているボディの中心部アーンプ（AHANP）帯は、宇宙が誕生してから今日まで、自らの営みの膨大な情報を記憶しており、その振動波は自転することによってエネルギー化し、時間というエネルギーを作り出しています。

そして、楕円の螺旋公転運動に拠って空間のエネルギーを生み出して、アナログ化により一体化させ、愛の振動波を作り出しました。

常にシン（HCIN）帯の外側（※本質生命体の振動層の最外殻の外側）に広がる宇宙の時空間に、クオークの素になる愛の振動波を供給し続けています。

クオークの海である宇宙の時空間では、あらゆる宇宙生命体が自然の法則に基づいて、生命活動を営みながら宇宙を学び続けています。

クオークのエネルギーは時間のエネルギーであり愛です。

愛は意志というエネルギーであって、宇宙存在の学びは体験と味わいである調和という意識で、空間のエネルギーです。

宇宙は愛と調和の実践によって成長し続けています。

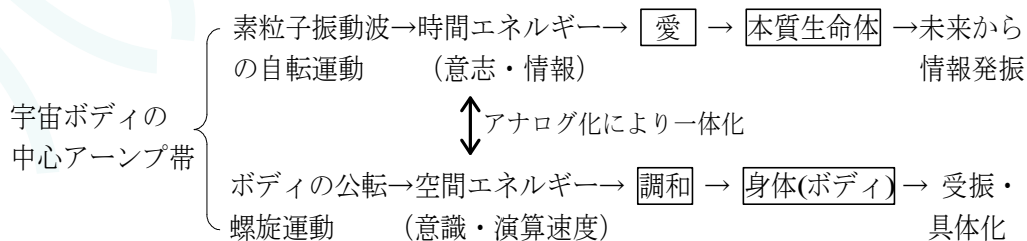
愛と調和の学びをより効率よく具体化するため、時間と空間は一体化しています。

本質生命体とその選択しているボディは意志と意識を持っています。

本質生命体は未来からの情報発振で、主に意志に対応しています。

ボディは受振になっていて意識に対応しています。

### 宇宙の仕組み（時空間）の根本原理



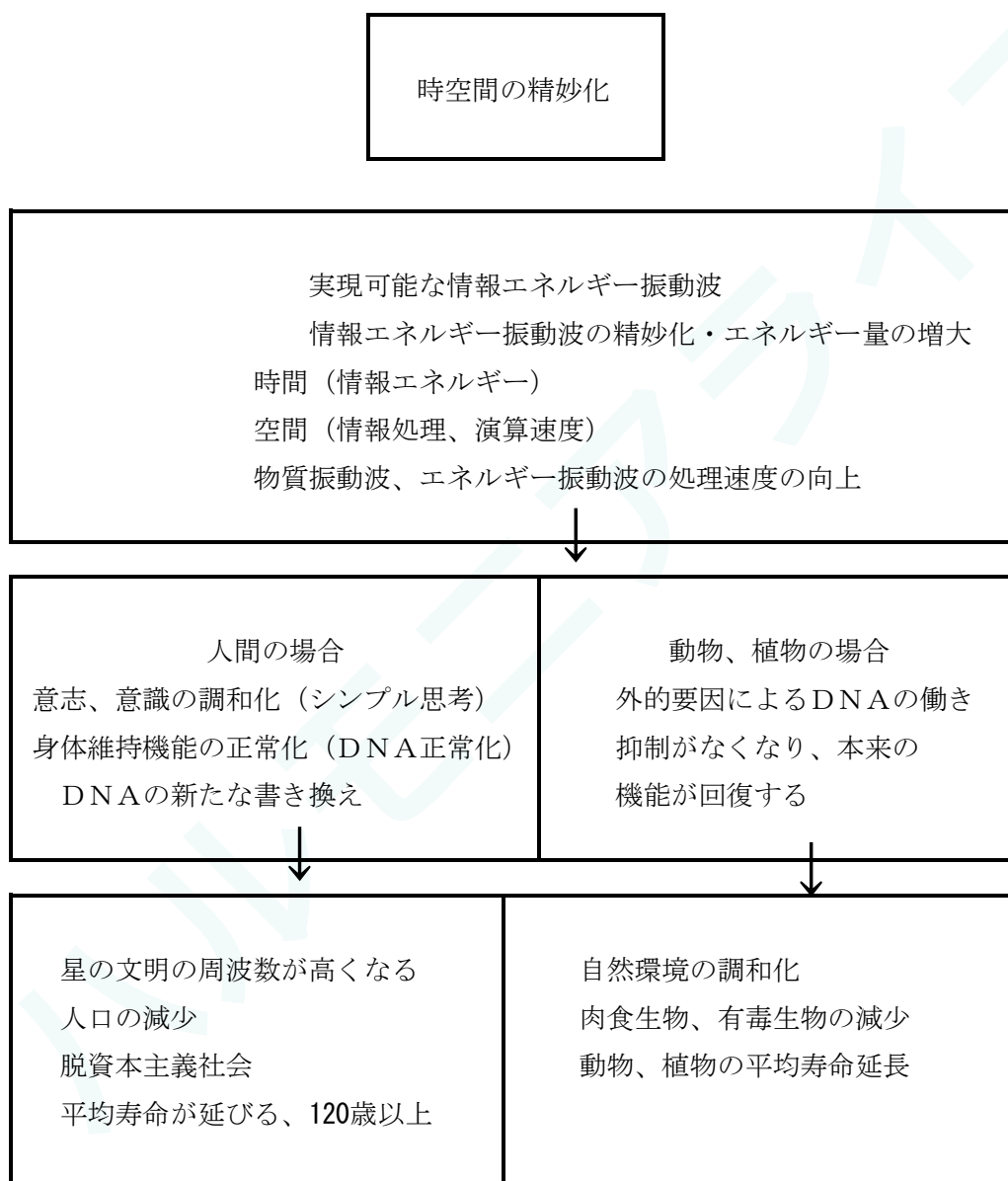
※ 陽子 = 意志 = 愛

中性子 = 意識 = 調和 「波動の法則」 足立育朗著より

意識転換を通して得られるシンプルで効率の高い具体化が、本質生命体とボディが直接宇宙から情報を直観から入手して即断即決の具体化で実現されます。

このとき、私たちは非常に効率が高く速い時間の流れと、ゆったりと進む全体の時間の循環を体感するようになります。

人間の平均寿命ものびて120歳以上になっていきます。





## ■ 「気づき」と時空間

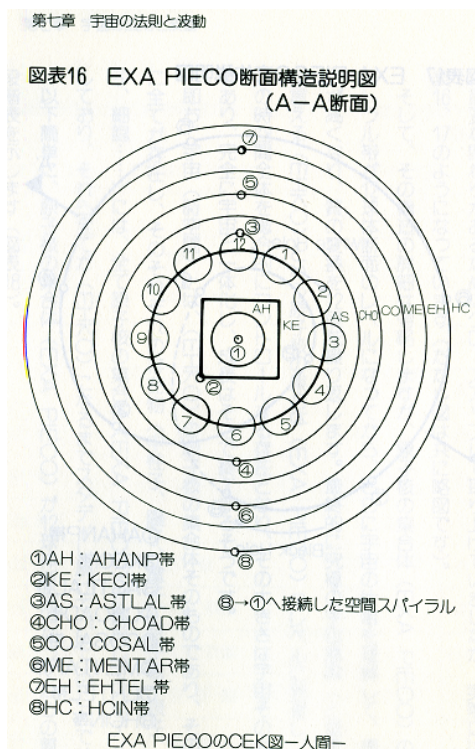
私たちの気づきは、他人からの説得や、依存状態からは生まれてきません。

思考を継続している状態や、目的意識を持って行動と体験をしている時、さわやかな喜びの感覚をもって生まれてきます。

気づきは、気付いた人々を取り囲む時空間の振動周波数の再編成複合化の課程になります。

時空間は、時間（情報）と空間（情報の演算速度）が一体化していますから、選択するボディを持っていない本質生命体が発振する固有の振動周波数帯域の振動層や、選択しているボディを持って生成発展している私たち人間の発振周波数の帯域が重層的に重なり合い、互いに同調共鳴し合って振動層の一体化が完成した時、気づきが生まれるようになっています。

気づきからの生成発展は 究極の宇宙意識のボディ、ケーシー帯が 12 角形の形態をとる個々の存在の調和した重なり合いは、ピラミッドの石が一個一個積み重なって美しいピラミッドを構築している状態のように、12 角形の形態を作りあげていきます。



図表18

原子核の集合体 (EXA PIECO) が12球体断面になってからの質の段階表

	EXA PIECOの名称	スタディの対象物	KECI帯
0	HMLAK	雲	
1	GINUP	人間	・
2	HRUFOZ	〃	—
3	CEFJS	〃	△
4	KEHV	〃	□
5	DOHS	〃	5角形
6	HSANU	星	6角形
7	JOT	〃	7角形
8	CIOP	銀河	8角形
9	GHOKL	銀河グループ	9角形
10	CEG	銀河グループ	10角形
11	DHLO	銀河全て	11角形
12	EKHO	宇宙全て	12角形

☆「波動の法則」 足立育朗著 ナチュラルスピリット刊 より

## ■ 感謝のはたらき

私たちは、仕事中や、貴重な情報による適切なアドバイス、重要な仕事を多くの人たちの協力で成功させることができたとき、周囲の援助に対して人は感謝の気持ちを伝えます。

感謝の心や言葉は、時空間のエネルギー運動からみますと、個々の存在が調和をとって進化していく速度を早めてくれる補助エネルギーの一つの形態であることが理解されてきます。

自然界は、エネルギーと物質の相関関係からエネルギーの循環が発生しています。

この自然界のなかで人間は働いてエネルギーを使い、仕事をした成果が各種の物質の形となって私たちに与えられます。

この仕事と成果に感謝のエネルギーが加わりますと、次のようになります。

調和への行動エネルギーは、その人間が存在している時空間の振動波と同調、共鳴します。

その時、時空間の愛の振動波も加わります。

愛の振動波は無限に存在していますから、調和のエネルギー再編のため供給され、調和の基礎となる振動波です。

このようにして愛の振動波、調和への行動エネルギー、感謝のエネルギーの複合系は再編成されます。

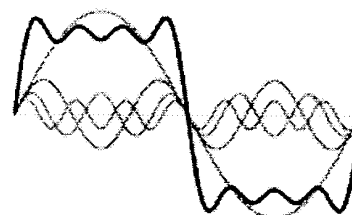
この複合系の感謝のエネルギーは「ありがたく思い率直に受け入れる」ことですから、この複合系再編成の課程である同調、共鳴、共振に対してマイナスの方向で働く荒くて低い振動波を除去して、当初の目的通りに複合系を完成させる、調整的なエネルギーとして役割を果たします。

電氣的な概念ですと、同調、共振している発振系の増幅効率を高めるため、振動波エネルギーの減衰部分に相当する谷の部分のカットするフィルターの役割です。

感謝の心と言葉は援助（サポート）をした人と、サポートを受けた人、二人の行動エネルギーの調和化を進める調整の働きをします。

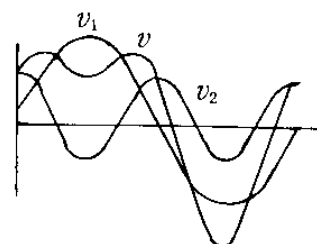
「ありがとう」という言葉は、サポートした人の立場を受け入れることと、受け入れた自分も認める、そしてサポートした人は認められたという調整的な振動波上昇の相乗効果をもたらすこととなります。

奇数波高調波の合体波形



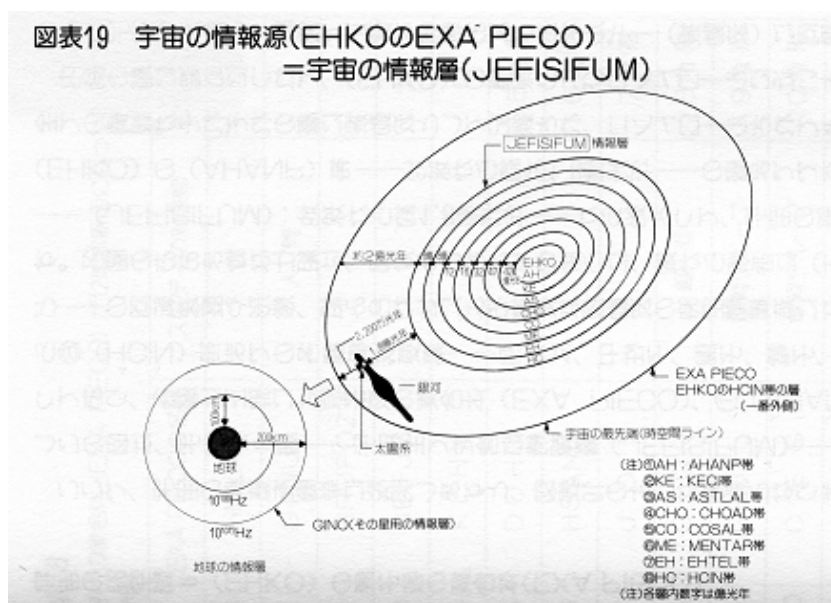
基本波 + 3倍 + 5倍 + 7倍

偶数波高調波の合体波形



基本波 + 2倍

※奇数波高調波は正波・負波共に対象形となり、ひずみが問題化しやすい。→音割れしやすい。偶数高調波は正波・負波が非対称形となり、倍音成分により聴感的に心地よく感じる。よって、問題化する周波数部分はカットする。



☆「波動の法則」足立育朗著 ナチュラルスピリット刊 より

時空間の構成は 振動周波数の 未来、現在、過去、の周波数が一体化した時空間ですから、同一時空元のなかであらゆる存在の振動波が受振、発振を行っています。

この状態は、発振、受振可能な存在があらゆる形態で互いにコミュニケーションを行い得る時空元ですから、意識体のみや、ボディを持って活動する意識体との対話交流を実現させる時空元にもなっています。

このように私たちを取り囲んでいる空間や森羅万象は、私たちに気づきをいつでも供給可能な状態になっています。

仏陀が悟りの境地に至る勉強を妨害するマーラ（※ブッダを誘惑した悪魔で、六欲天の第六天である他化自在天の主）に述べた言葉に、気づきのきっかけをうかがい知ることができます。

仏陀：家を建てる者よ、もう家を建ててはならない

マーラ：真理を求める者よ、私の家に住むがいい

仏陀：あなたの家は私の自我、あなたはまぼろしで存在していない。

家を建てるこの大地が私と共にあるのだから

この仏陀の言葉でマーラは仏陀の悟りを知り、仏陀の前から姿を消していきました。

人間は自然界の一存在です。

仏陀の目には宇宙の営みが原因と結果の世界であること、それを引き起こすあらゆる存在の相関関係があること、愛の心なしに心が晴れることはあり得ないことを知ったのです。